

## ② 第2回アンケートの結果



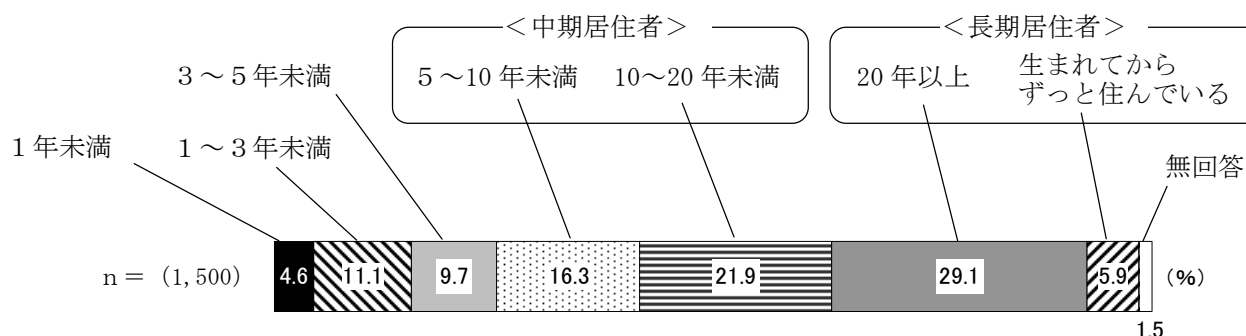
# 1 定住状況について

## 1-1 居住年数

◎20年以上の<長期居住者>が35.0%

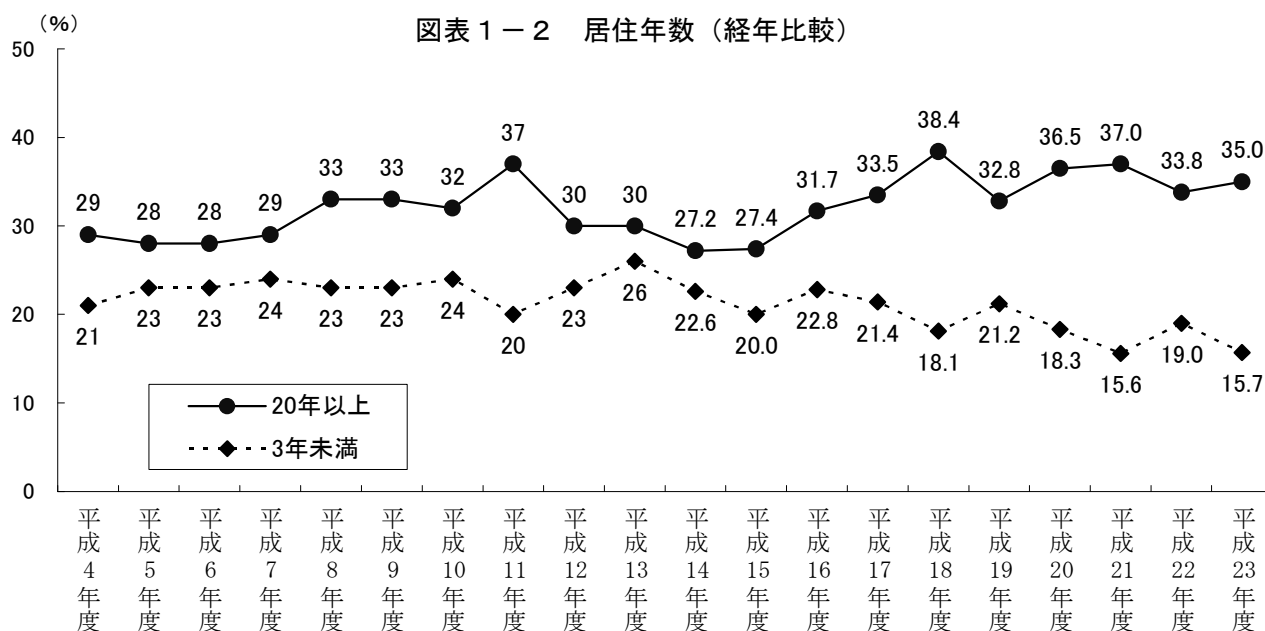
問1 今のところにお住まいになって、何年になりますか。(○は1つだけ)

図表1-1 居住年数



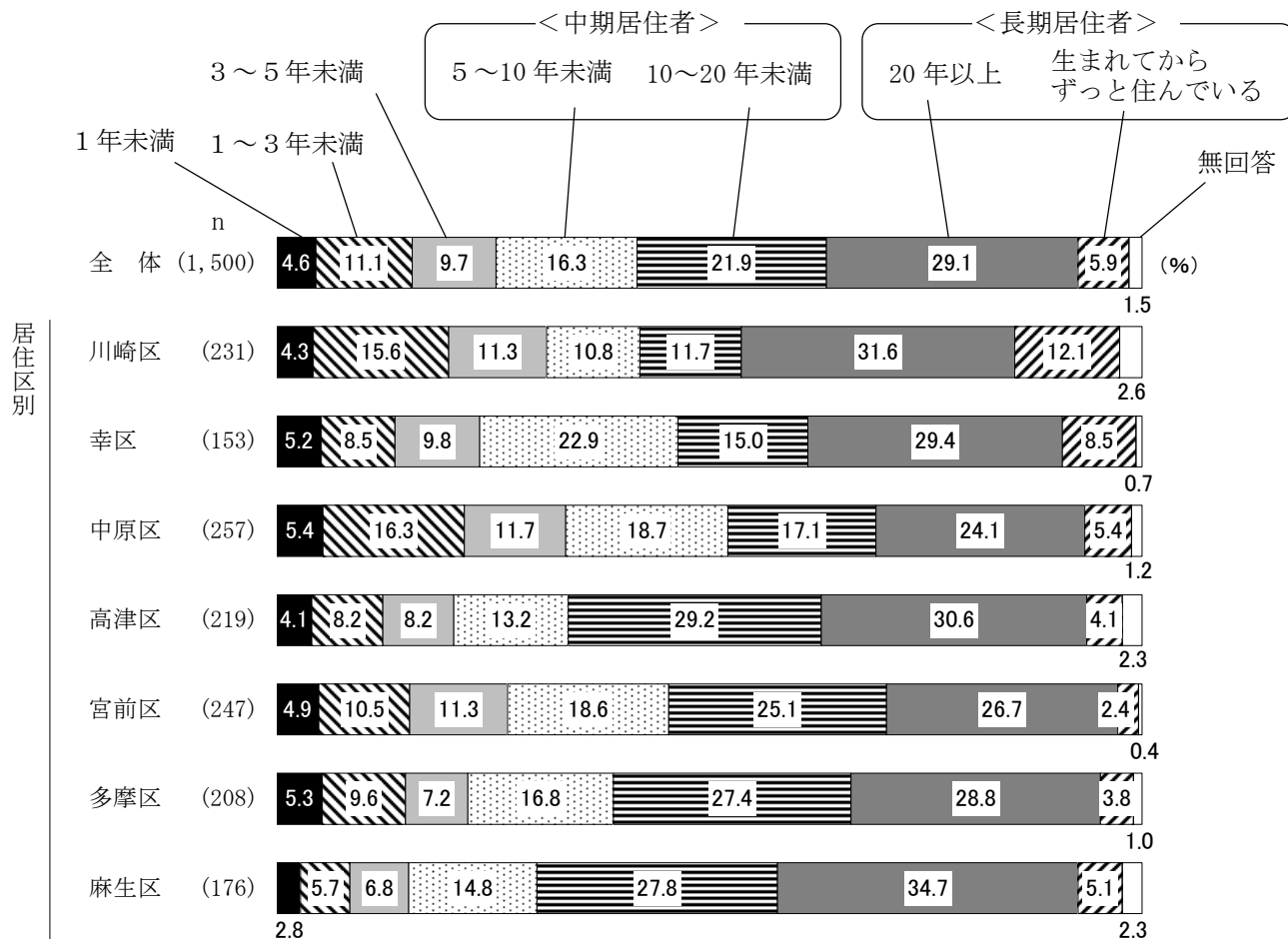
居住年数は、「20年以上」(29.1%)が最も多く、これに「生まれてからずっと住んでいる」(5.9%)をあわせた<長期居住者>は35.0%となっている。「5～10年未満」(16.3%)と「10～20年未満」(21.9%)をあわせた<中期居住者>は38.2%となっている。(図表1-1)

図表1-2 居住年数(経年比較)



過去の推移では、平成22年度と比較すると、<長期居住者>は、33.8%から35.0%へ1.2ポイント増加している。「3年未満」は、19.0%から15.7%へと3.3ポイント減少している。「20年以上」と「3年未満」の割合の差は、19.3ポイントで前年から増加している。(図表1-2)

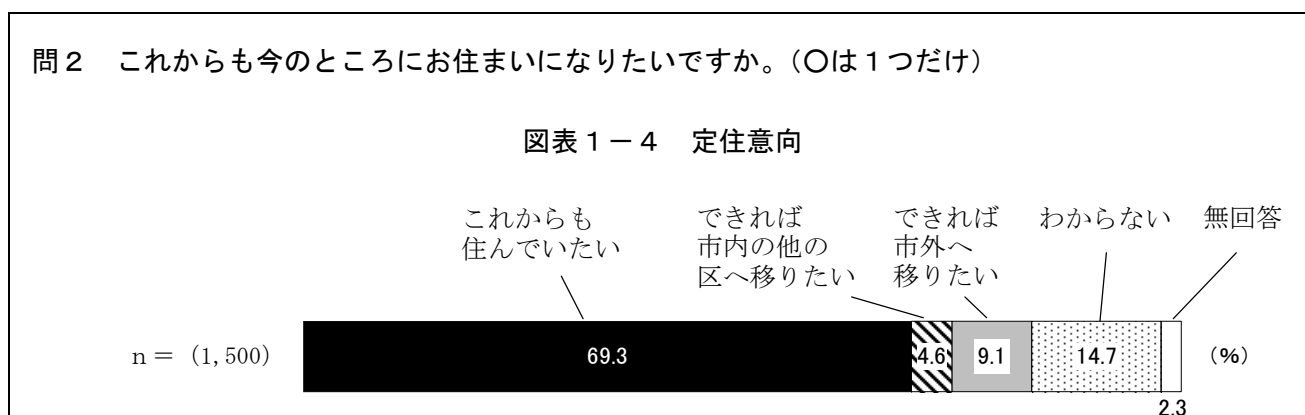
図表 1-3 居住年数 (居住区別)



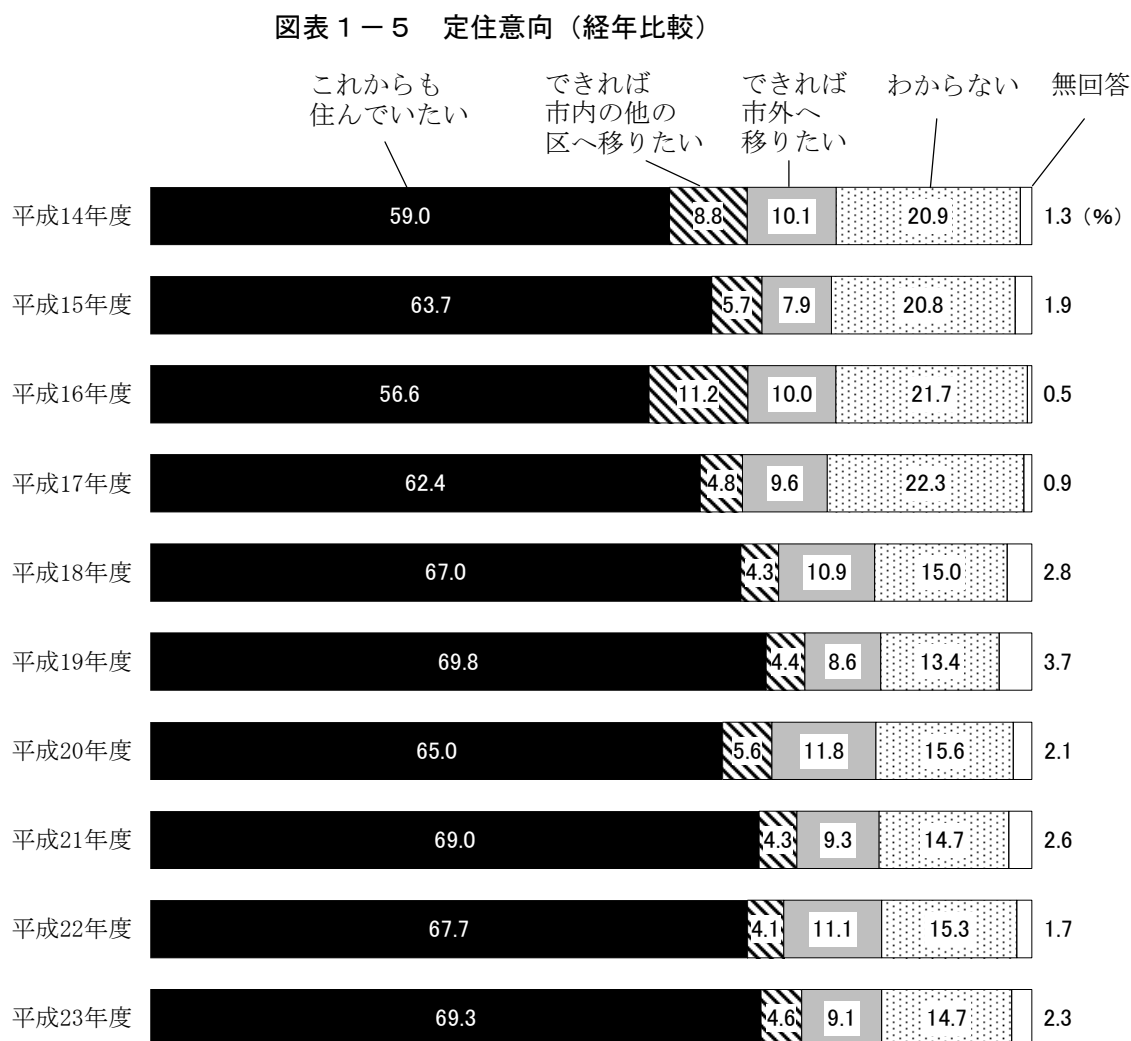
居住区別では、＜長期居住者＞は、川崎区が43.7%で最も多くなっている。次いで、麻生区の39.8%、幸区の37.9%と続いている。「3年未満」は、中原区が21.7%で最も多くなっている。次いで、川崎区の19.9%、宮前区の15.4%と続いている。(図表1-3)

## 1-2 定住意向

◎「これからも住んでいたい」が69.3%

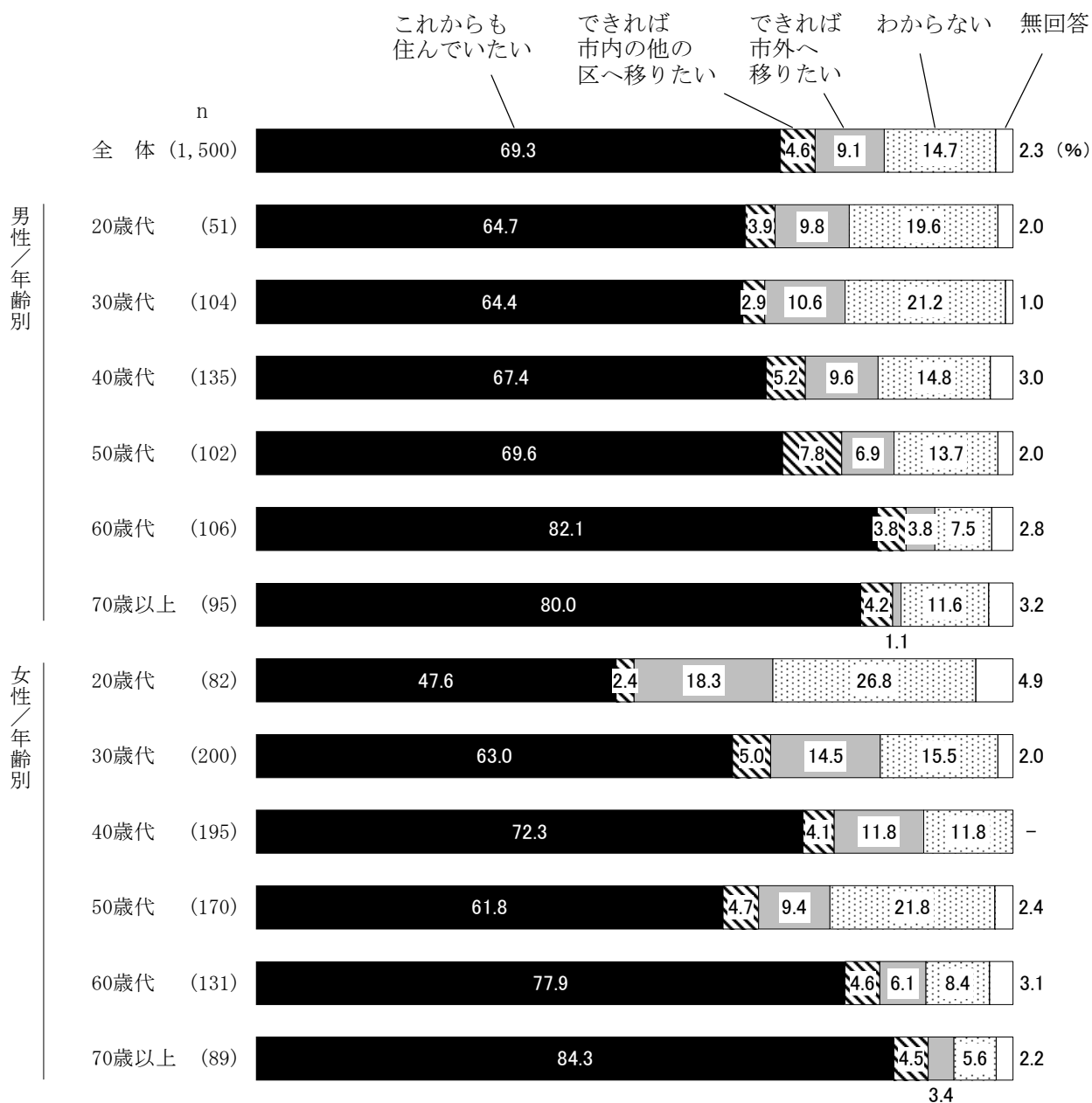


定住意向は、「これからも住んでいたい」は69.3%、「できれば市外へ移りたい」は9.1%となっている。(図表1-4)



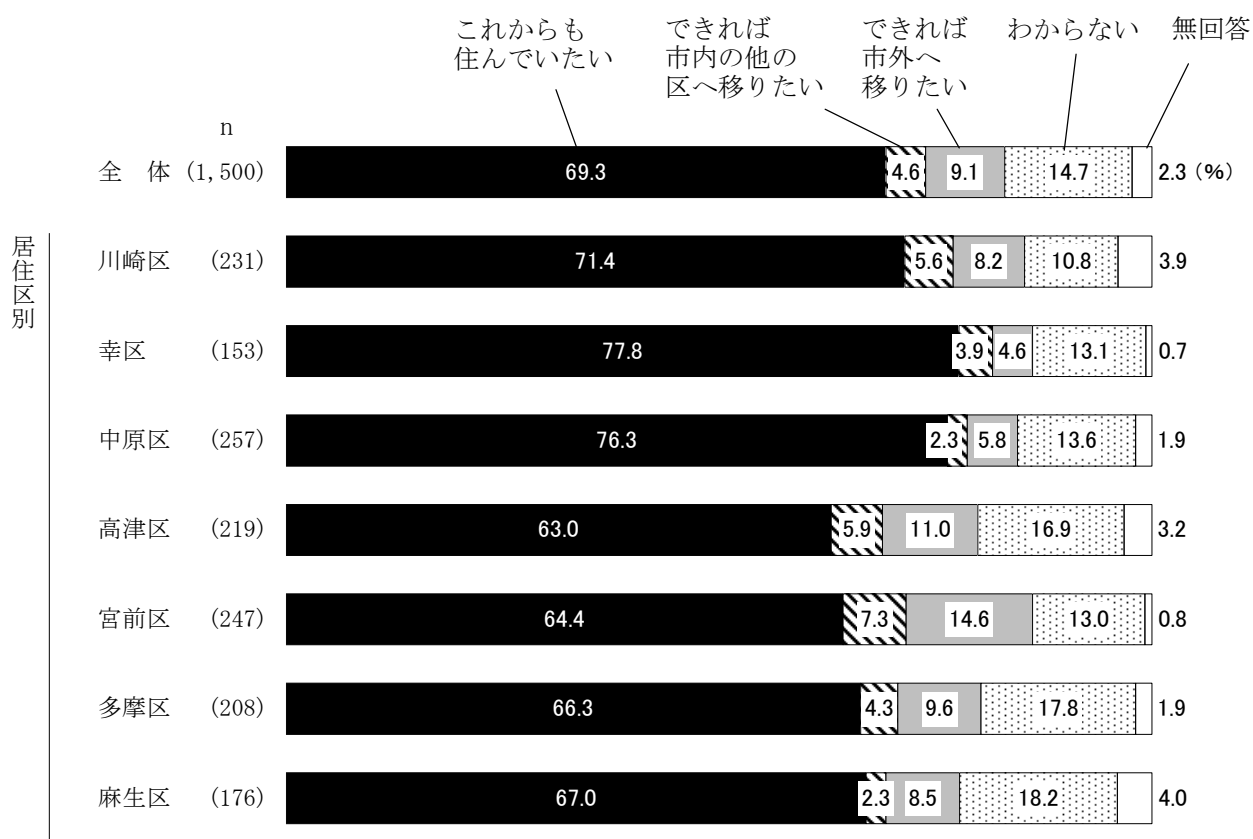
「これからも住んでいたい」は、平成17年度以降は6割台で推移しており、「できれば市内の他の区へ移りたい」をあわせた平成23年度の市内在住意向は73.9%となっている。(図表1-5)

図表1-6 定住意向(性/年齢別)



性/年齢別では、「これからも住んでいたい」は、男女ともにおおむね年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向となっている。男性では60歳代(82.1%)と70歳以上(80.0%)、女性では70歳以上(84.3%)が8割台と多くなっている。(図表1-6)

図表1-7 定住意向(居住区別)



居住区別では、「これからも住んでいたい」は、幸区(77.8%)が最も多くなっている。次いで、中原区(76.3%)、川崎区(71.4%)の順となっている。(図表1-7)

### 1-3 転居意向の理由

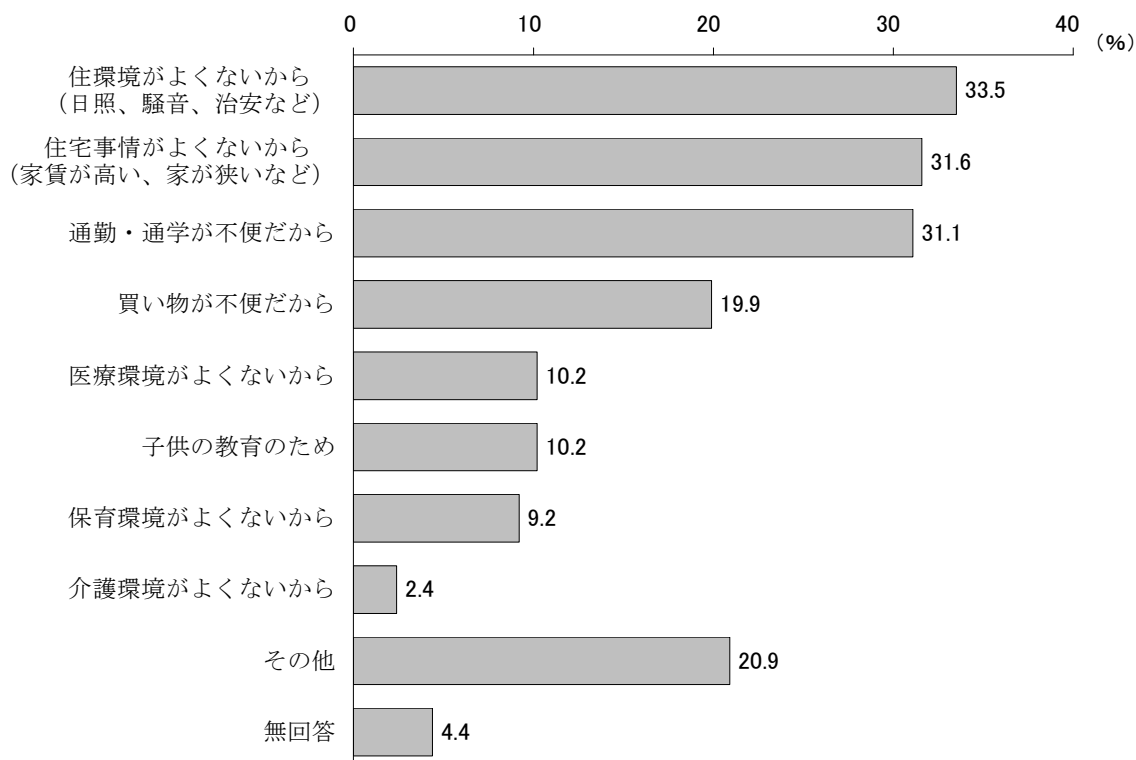
◎「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」が33.5%

(問2で「2 できれば市内の他の区へ移りたい」「3 できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。)

問3 今のところから移りたい、または移る理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表1-8 転居意向の理由

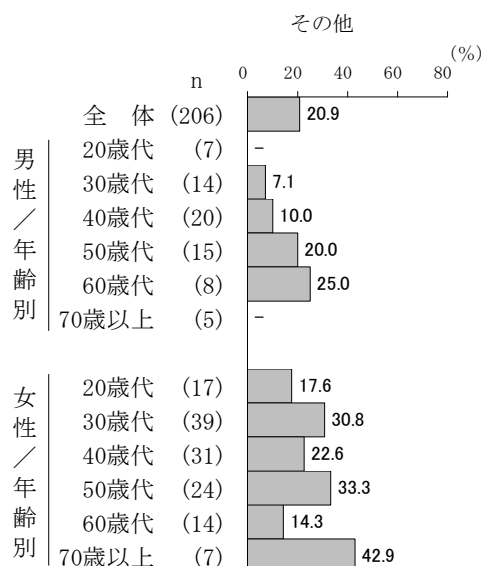
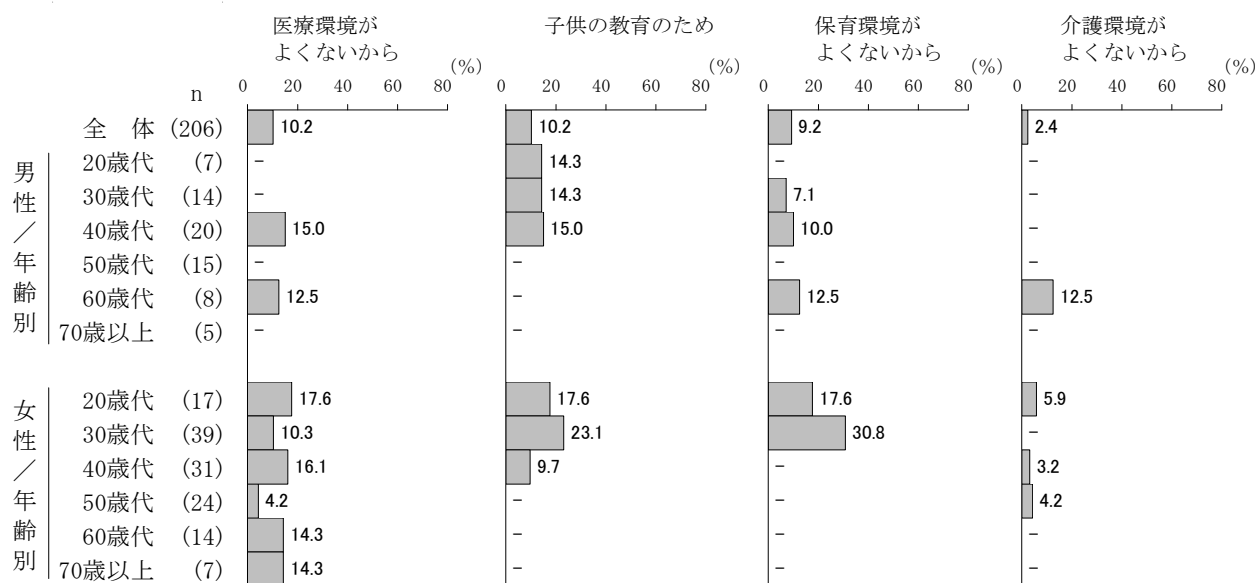
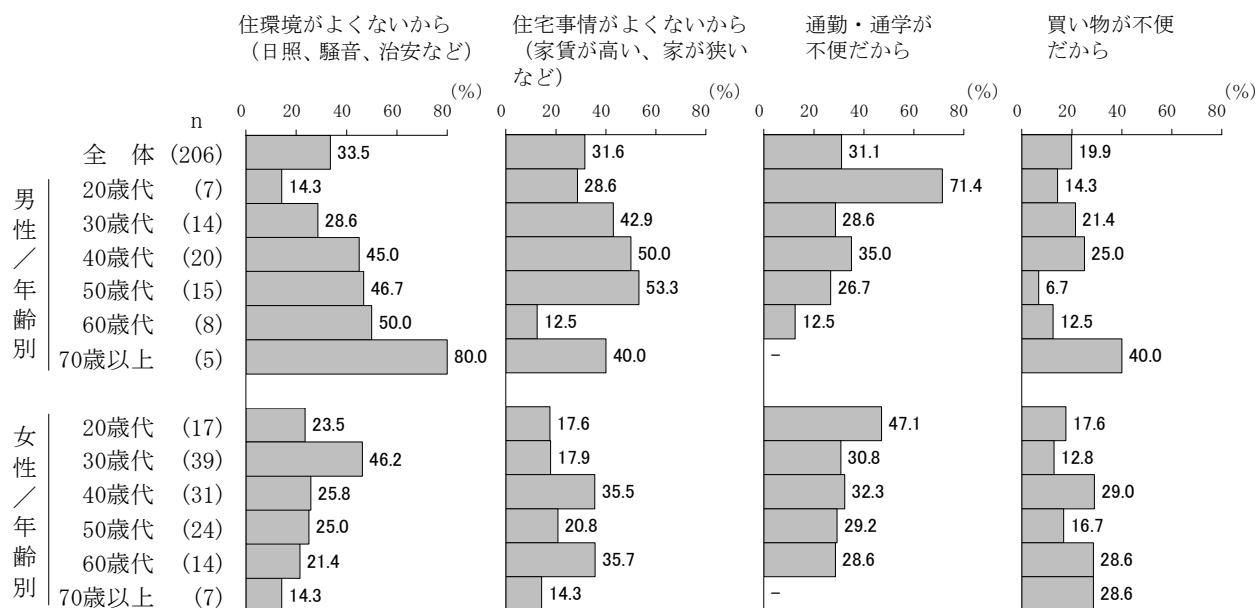
(複数回答) n = (206)



転居意向の理由は、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」(33.5%)が最も多くなっている。次いで、「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」(31.6%)、「通勤・通学が不便だから」(31.1%)、「買い物が不便だから」(19.9%)の順となっている。(図表1-8)

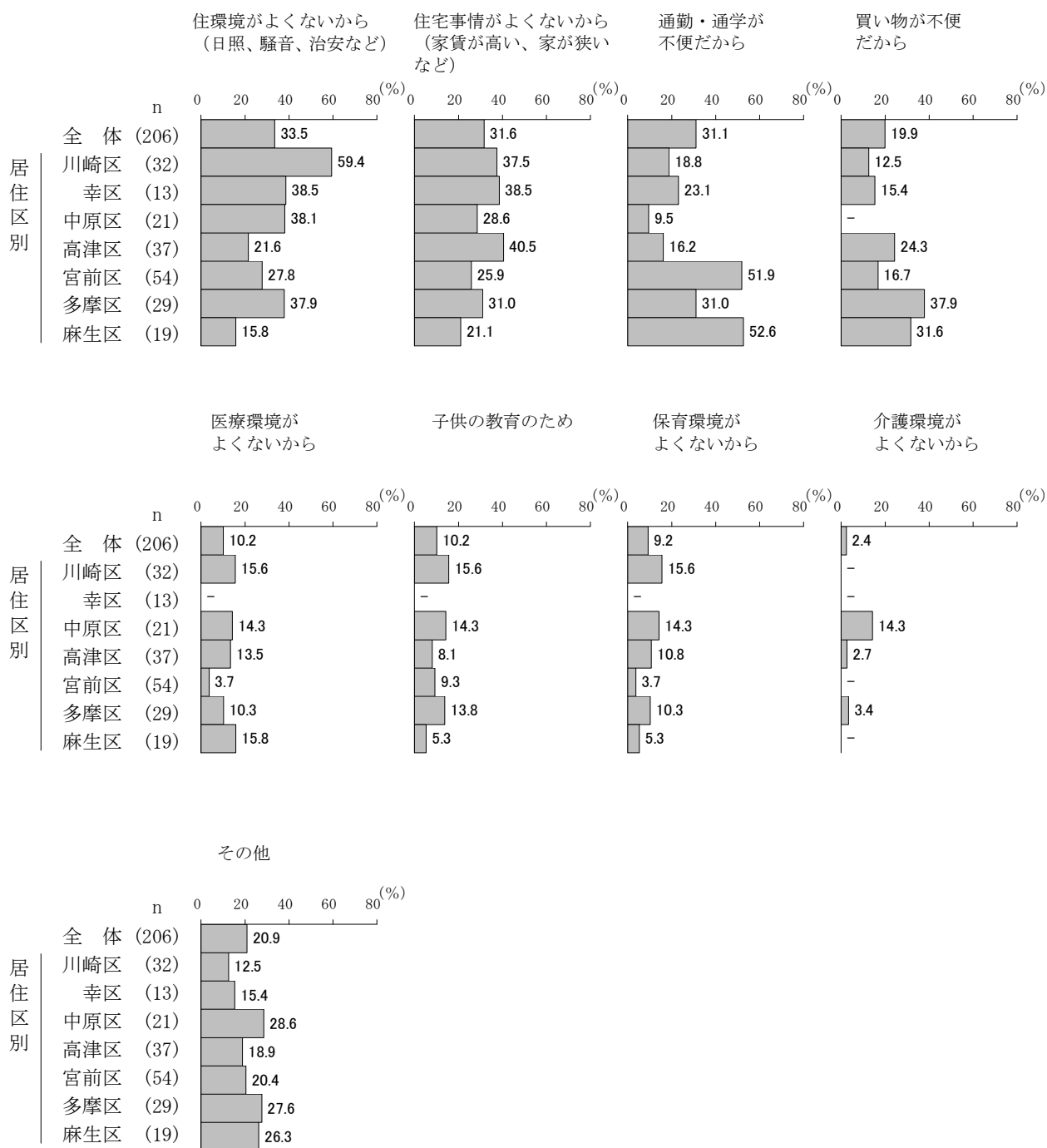


図表1-9 転居意向の理由(性/年齢別)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-9)

図表1-10 転居意向の理由(居住区別)



居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-10)

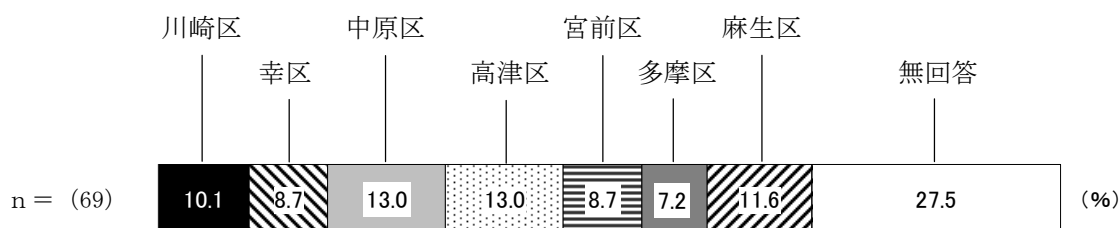
## 1-4 転居先の希望

◎市内では「中原区」「高津区」13.0%、市外では「東京23区」46.0%が多い

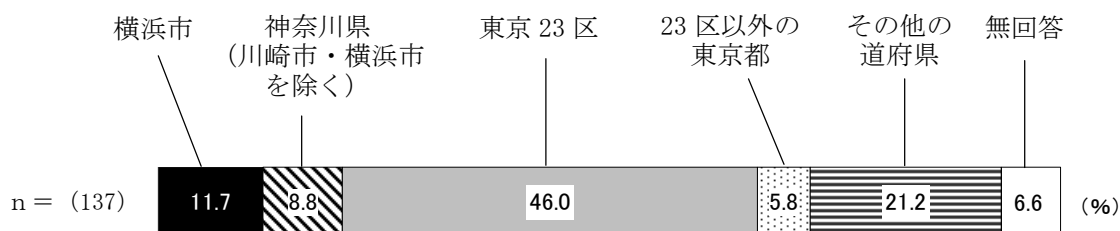
(問2で「2 できれば市内の他の区へ移りたい」「3 できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。)

問4 どこに住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

図表1-11 転居先の希望(市内)



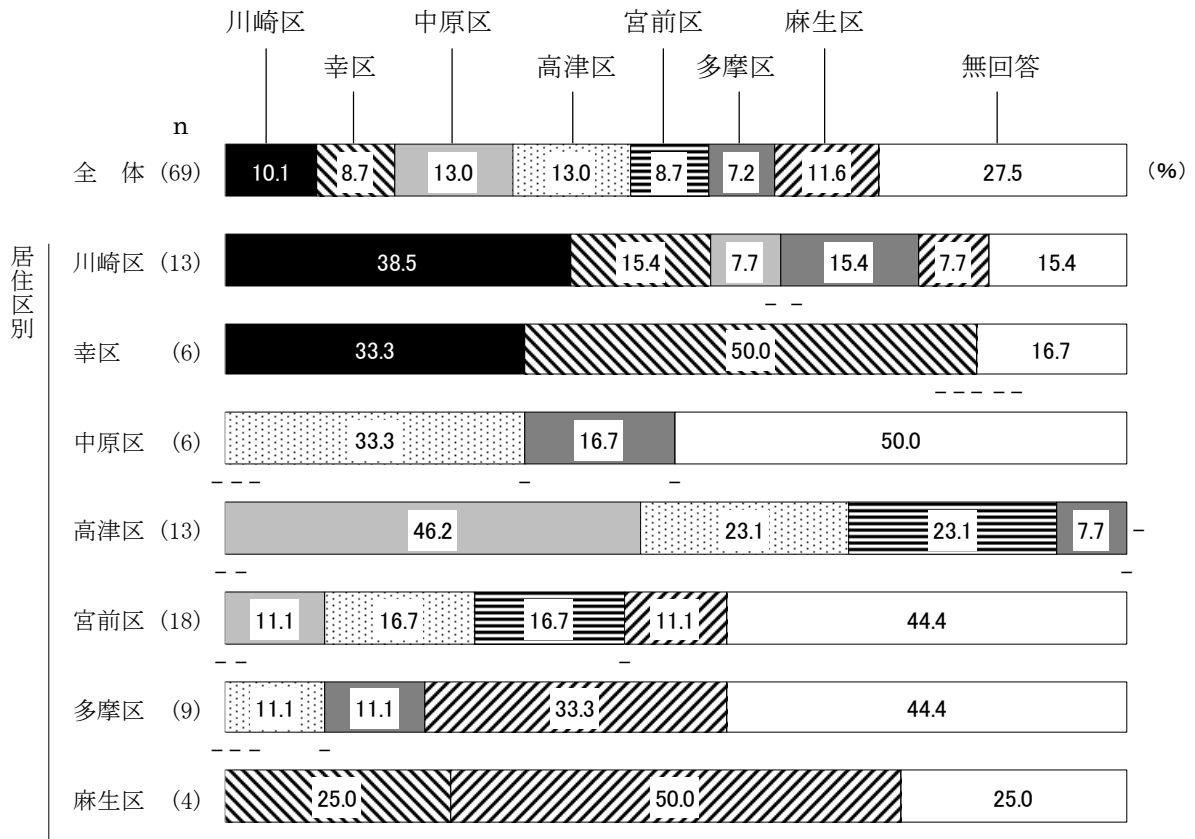
図表1-12 転居先の希望(市外)



転居先の希望(市内)は、「中原区」(13.0%)、「高津区」(13.0%)が最も多くなっている。次いで、麻生区(11.6%)、川崎区(10.1%)の順となっている。(図表1-11)

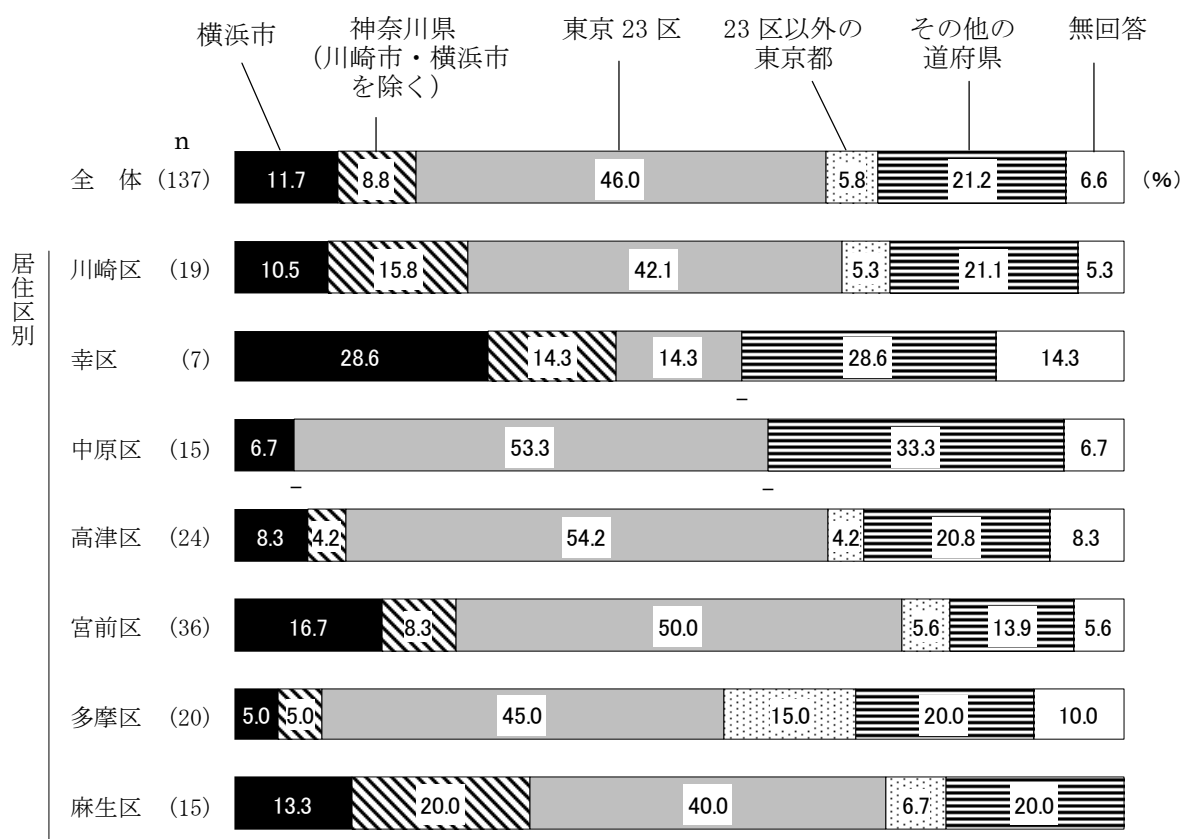
転居先の希望(市外)は、「東京23区」(46.0%)が最も多くなっている。次いで、「その他の道府県」(21.2%)、「横浜市」(11.7%)、「神奈川県(川崎市・横浜市を除く)」(8.8%)の順となっている。(図表1-12)

図表 1-13 転居先の希望 (市内、居住区別)



居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表 1-13)

図表 1-14 転居先の希望 (市外、居住区別)



居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表 1-14)

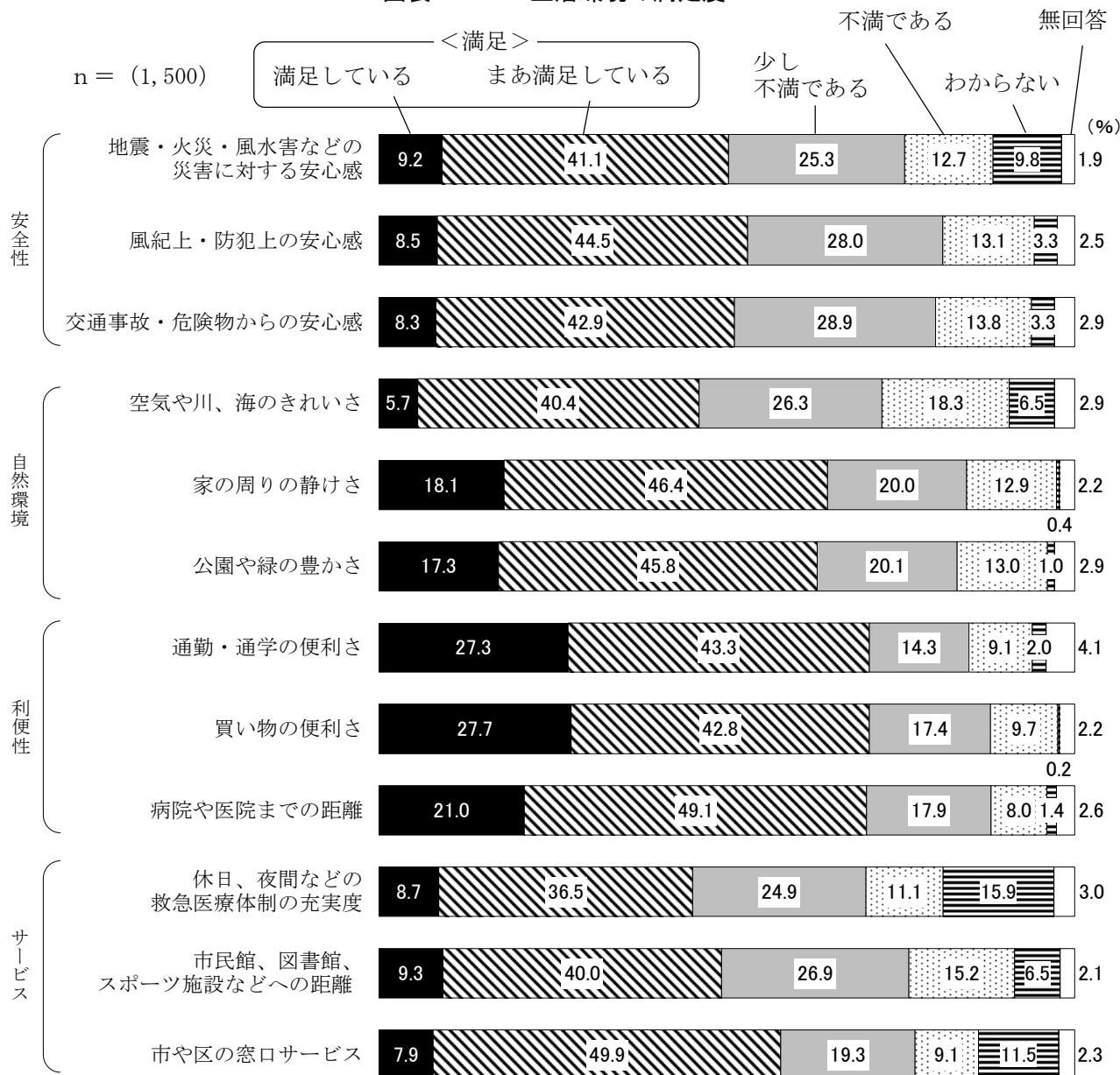
## 2 生活環境の評価について

### 2-1 生活環境の満足度

◎<満足>が多いのは、「通勤・通学の便利さ」、「買い物の便利さ」、「病院や医院までの距離」の利便性

問5 お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。  
次にあげる項目についてどの程度満足していますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表 2-1 生活環境の満足度



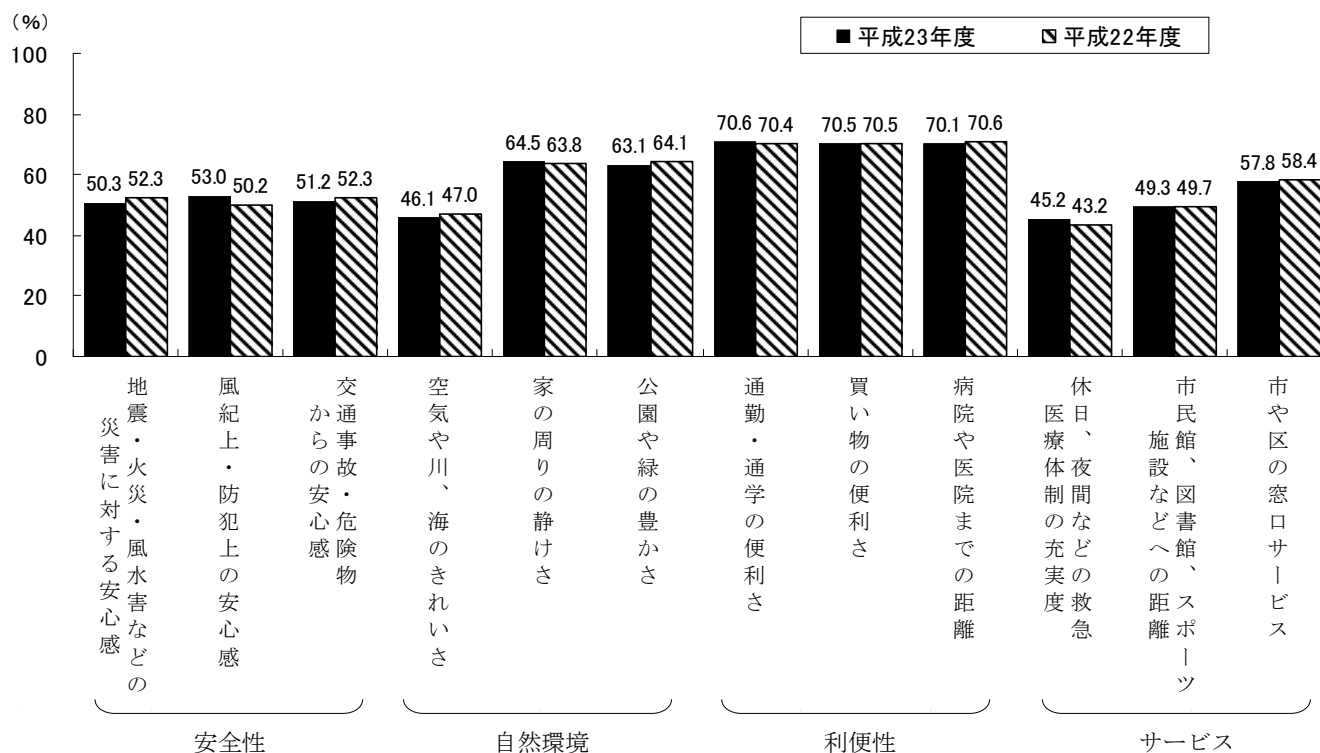
生活環境について、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた<満足>は、『利便性』の「通勤・通学の便利さ」(70.6%)、「買い物の便利さ」(70.5%)、「病院や医院までの距離」(70.1%)が7割台と多くなっている。一方、<満足>が最も少ないのは、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(45.2%)となっている。(図表 2-1)

図表2-2 生活環境の満足度（＜満足＞、経年比較）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

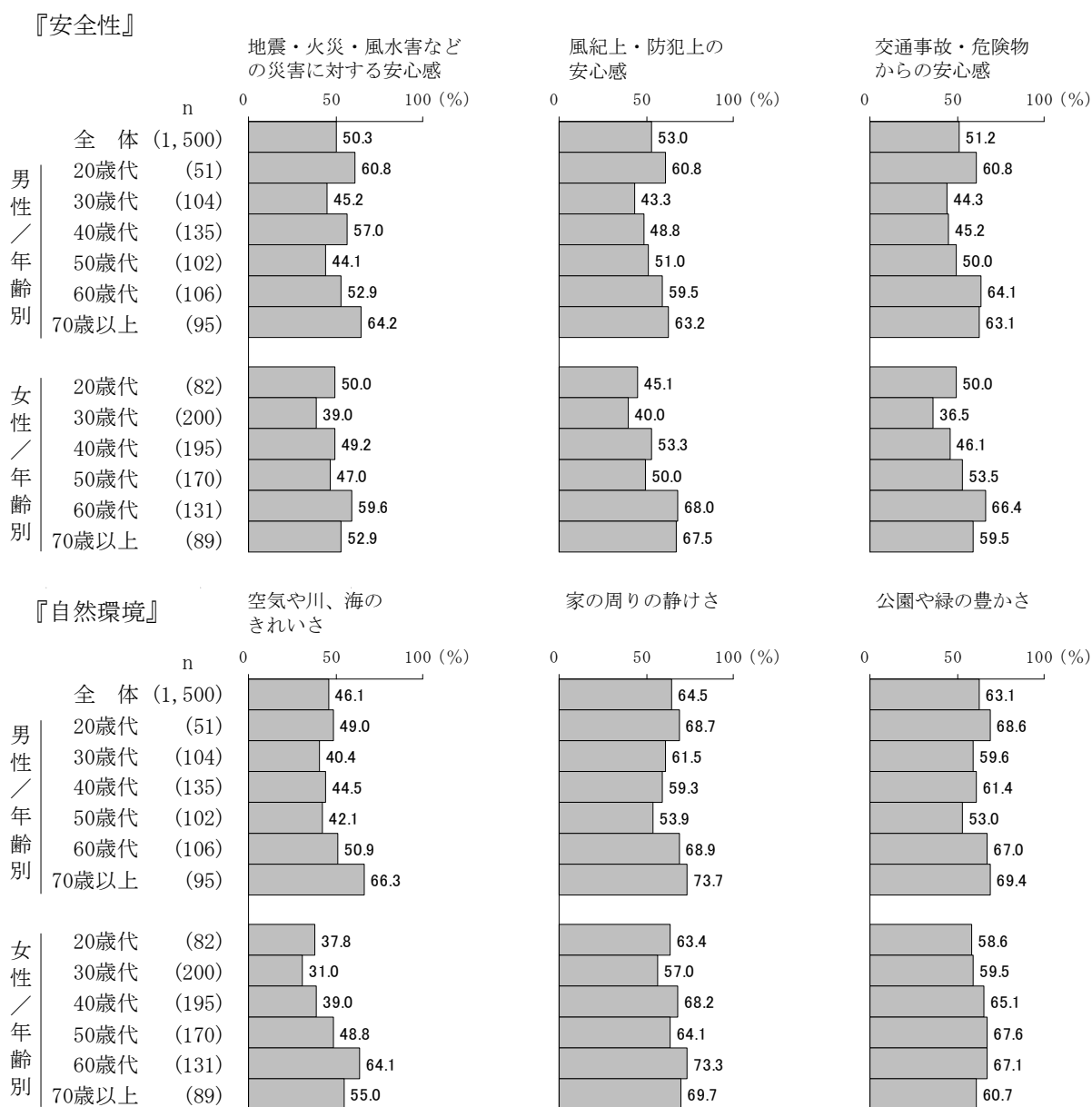
（%）

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
23年度	50.3	53.0	51.2	46.1	64.5	63.1	70.6	70.5	70.1	45.2	49.3	57.8
22年度	52.3	50.2	52.3	47.0	63.8	64.1	70.4	70.5	70.6	43.2	49.7	58.4



平成22年度と比較すると、12項目中で増加しているものは、「風紀上・防犯上の安心感」の2.8ポイント、「家の周りの静けさ」の0.7ポイント、「通勤・通学の便利さ」の0.2ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」の2.0ポイントの4項目で、「買い物の便利さ」は増減なしとなっている。その他の7項目については減少している。（図表2-2）

図表2-3 生活環境の満足度 (<満足>、性/年齢別)

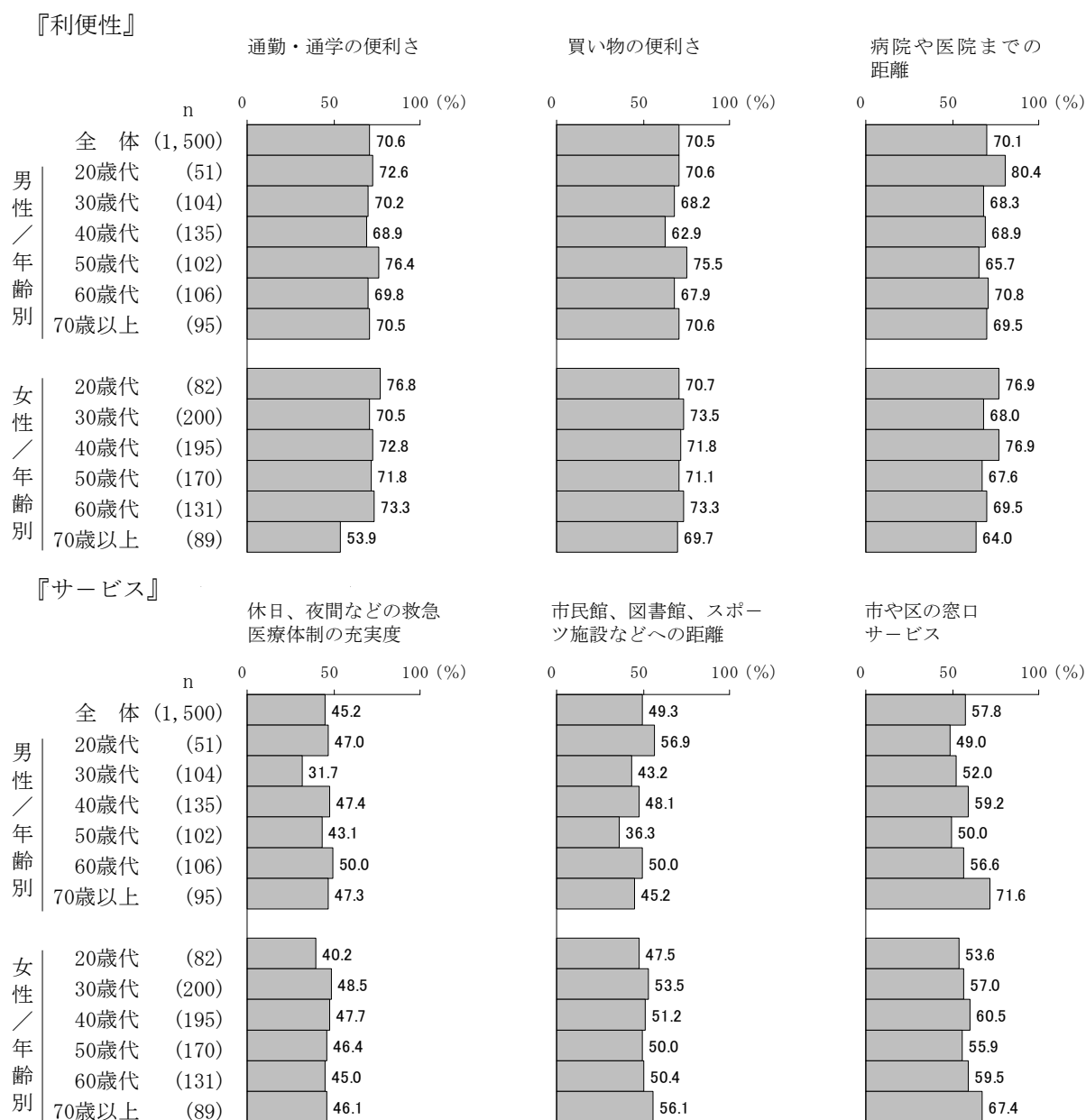


性/年齢別で『安全性』をみると、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は、男性では20歳代(60.8%)、70歳以上(64.2%)が6割台と多く、女性では60歳代(59.6%)が最も多くなっている。「風紀上・防犯上の安心感」および「交通事故・危険物からの安心感」は、男性では20歳代(60.8%)、60歳代(59.5%)、70歳以上(63.2%)、女性では60歳代(68.0%)、70歳以上(67.5%)が多くなっている。

『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「家の周りの静けさ」および「公園や緑の豊かさ」は、男性50歳代がやや少なくなっている。(図表2-3)



図表2-4 生活環境の満足度 (&lt;満足&gt;、性/年齢別)



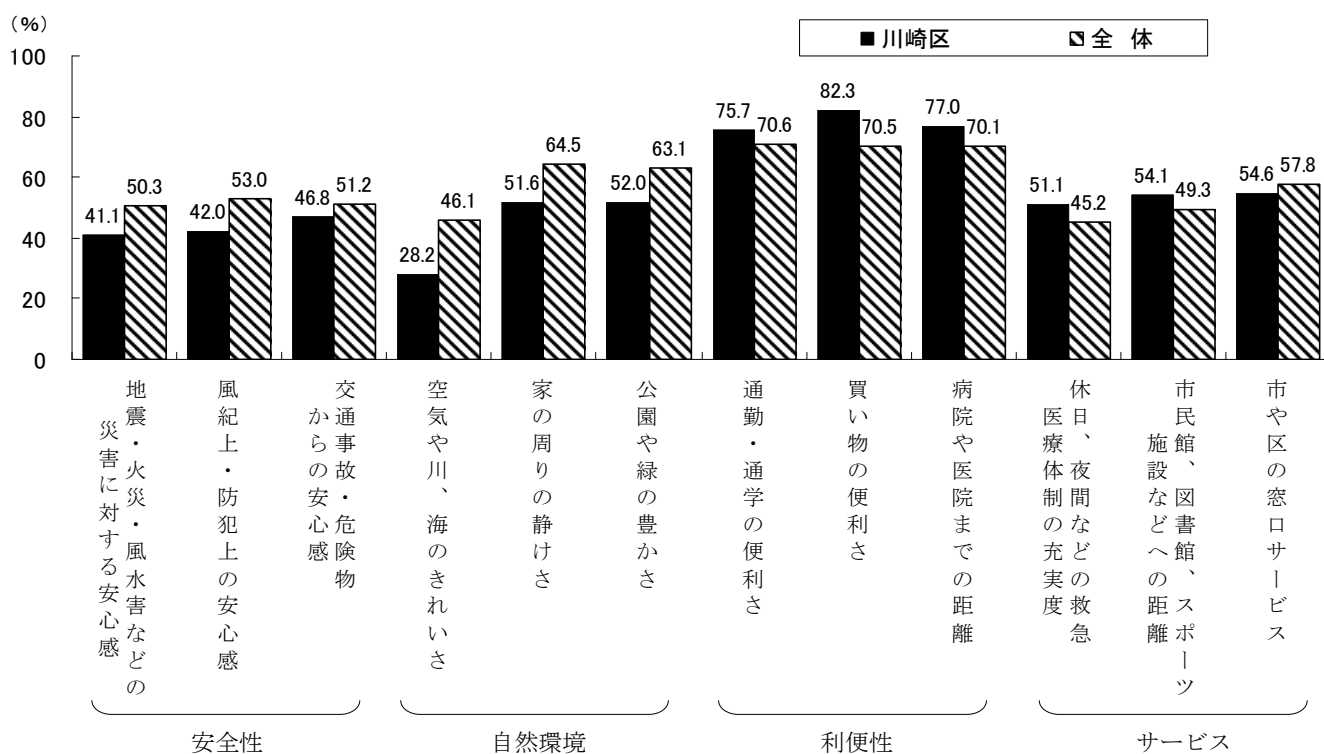
『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」は、男性では50歳代(76.4%)、女性では20歳代(76.8%)が最も多くなっている。「買い物の便利さ」は、男性40歳代(62.9%)が少なくなっている。「病院や医院までの距離」は、男性では20歳代(80.4%)が、女性では20歳代・40歳代(76.9%)が最も多くなっている。

『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は、男性では30歳代(31.7%)、女性では20歳代(40.2%)が少なくなっている。「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は、男性では20歳代(56.9%)が、女性では70歳以上(56.1%)が最も多くなっている。「市や区の窓口のサービス」は、男女ともに70歳以上(男性:71.6%、女性:67.4%)が最も多くなっている。(図表2-4)

図表2-5 生活環境の満足度 (<満足>、川崎区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
川崎区	41.1	42.0	46.8	28.2	51.6	52.0	75.7	82.3	77.0	51.1	54.1	54.6
全体	50.3	53.0	51.2	46.1	64.5	63.1	70.6	70.5	70.1	45.2	49.3	57.8



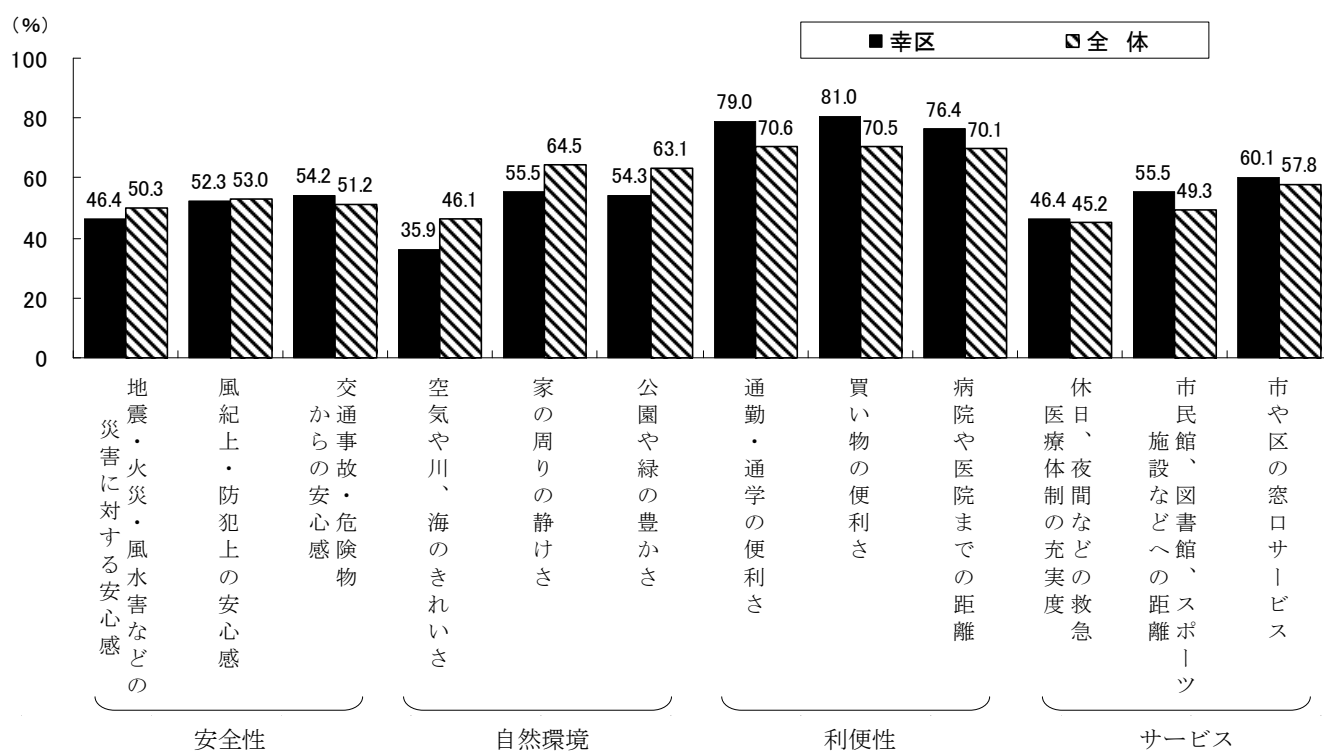
川崎区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を下回っている。「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は9.2ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は11.0ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は4.4ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は17.9ポイント、「家の周りの静けさ」は12.9ポイント、「公園や緑の豊かさ」は11.1ポイント下回っている。一方、『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「通勤・通学の便利さ」は5.1ポイント、「買い物の便利さ」は11.8ポイント、「病院や医院までの距離」は6.9ポイント上回っている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は5.9ポイントのプラス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は4.8ポイントのプラス、「市や区の窓口サービス」は3.2ポイントのマイナスとなっている。(図表2-5)

図表2-6 生活環境の満足度（＜満足＞、幸区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

（％）

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
幸区	46.4	52.3	54.2	35.9	55.5	54.3	79.0	81.0	76.4	46.4	55.5	60.1
全体	50.3	53.0	51.2	46.1	64.5	63.1	70.6	70.5	70.1	45.2	49.3	57.8

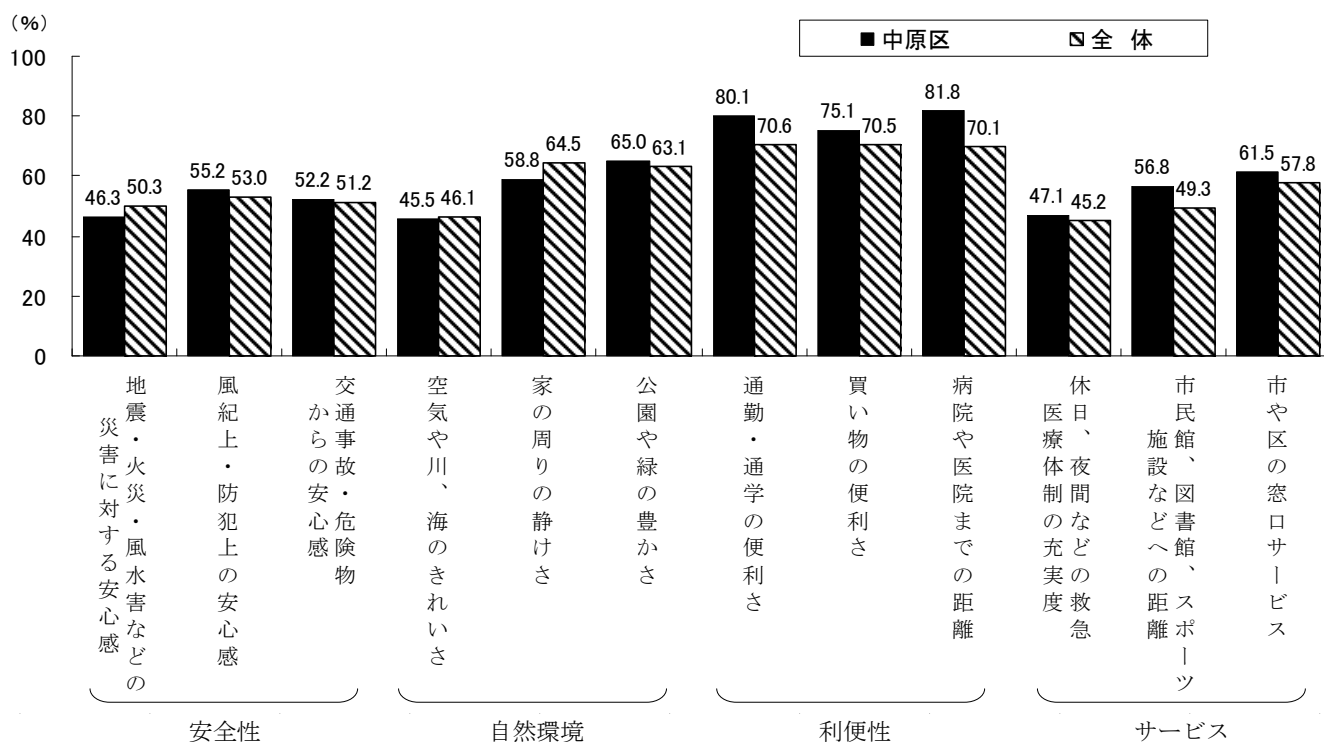


幸区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は3.9ポイントのマイナス、「風紀上・防犯上の安心感」は0.7ポイントのマイナス、「交通事故・危険物からの安心感」は3.0ポイントのプラスとなっている。『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を下回っている。「空気や川、海のきれいさ」は10.2ポイント、「家の周りの静けさ」は9.0ポイント、「公園や緑の豊かさ」は8.8ポイント下回っている。『利便性』、『サービス』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「通勤・通学の便利さ」は8.4ポイント、「買い物の便利さ」は10.5ポイント、「病院や医院までの距離」は6.3ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は1.2ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は6.2ポイント、「市や区の窓口サービス」は2.3ポイント上回っている。（図表2-6）

図表2-7 生活環境の満足度 (<満足>、中原区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
中原区	46.3	55.2	52.2	45.5	58.8	65.0	80.1	75.1	81.8	47.1	56.8	61.5
全体	50.3	53.0	51.2	46.1	64.5	63.1	70.6	70.5	70.1	45.2	49.3	57.8



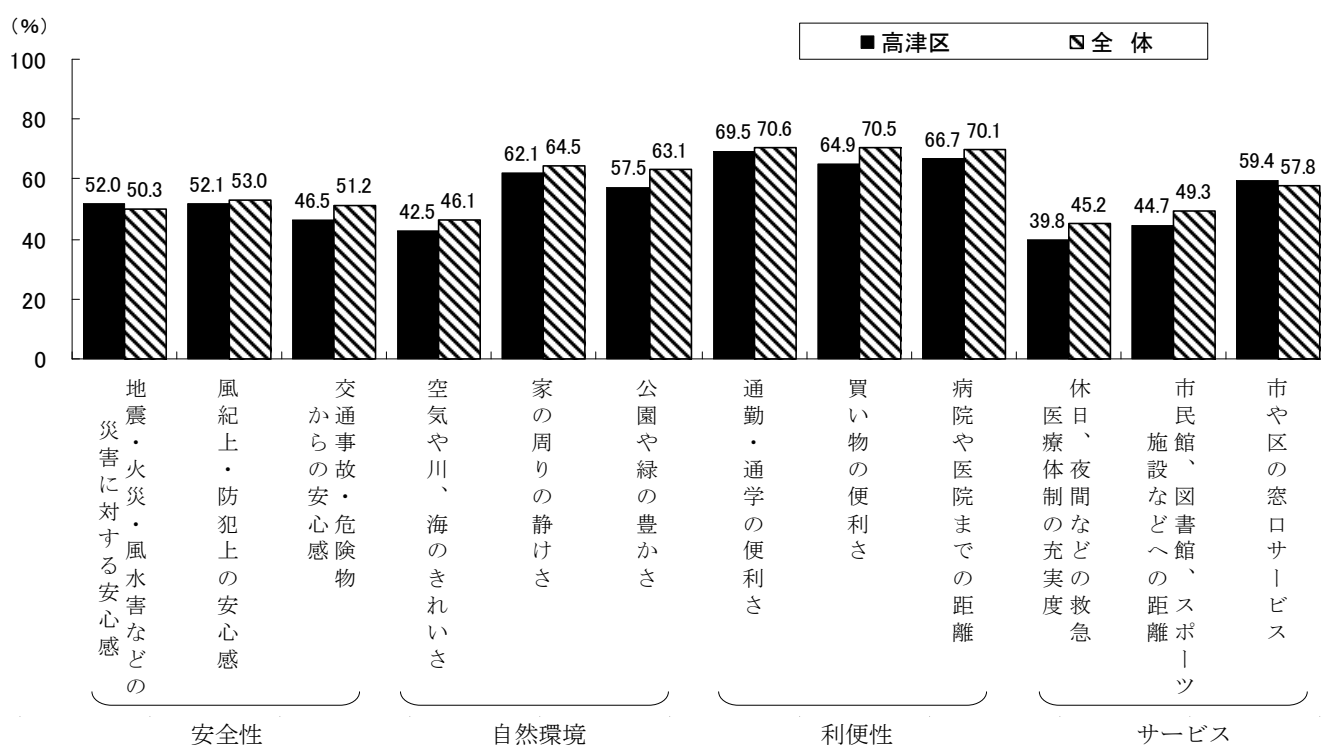
中原区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は4.0ポイントのマイナス、「風紀上・防犯上の安心感」は2.2ポイントのプラス、「交通事故・危険物からの安心感」は1.0ポイントのプラスとなっている。『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は0.6ポイントのマイナス、「家の周りの静けさ」は5.7ポイントのマイナス、「公園や緑の豊かさ」は1.9ポイントのプラスとなっている。『利便性』、『サービス』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「通勤・通学の便利さ」は9.5ポイント、「買い物の便利さ」は4.6ポイント、「病院や医院までの距離」は11.7ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は1.9ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は7.5ポイント、「市や区の窓口サービス」は3.7ポイント上回っている。(図表2-7)

図表2-8 生活環境の満足度 (&lt;満足&gt;、高津区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
高津区	52.0	52.1	46.5	42.5	62.1	57.5	69.5	64.9	66.7	39.8	44.7	59.4
全体	50.3	53.0	51.2	46.1	64.5	63.1	70.6	70.5	70.1	45.2	49.3	57.8



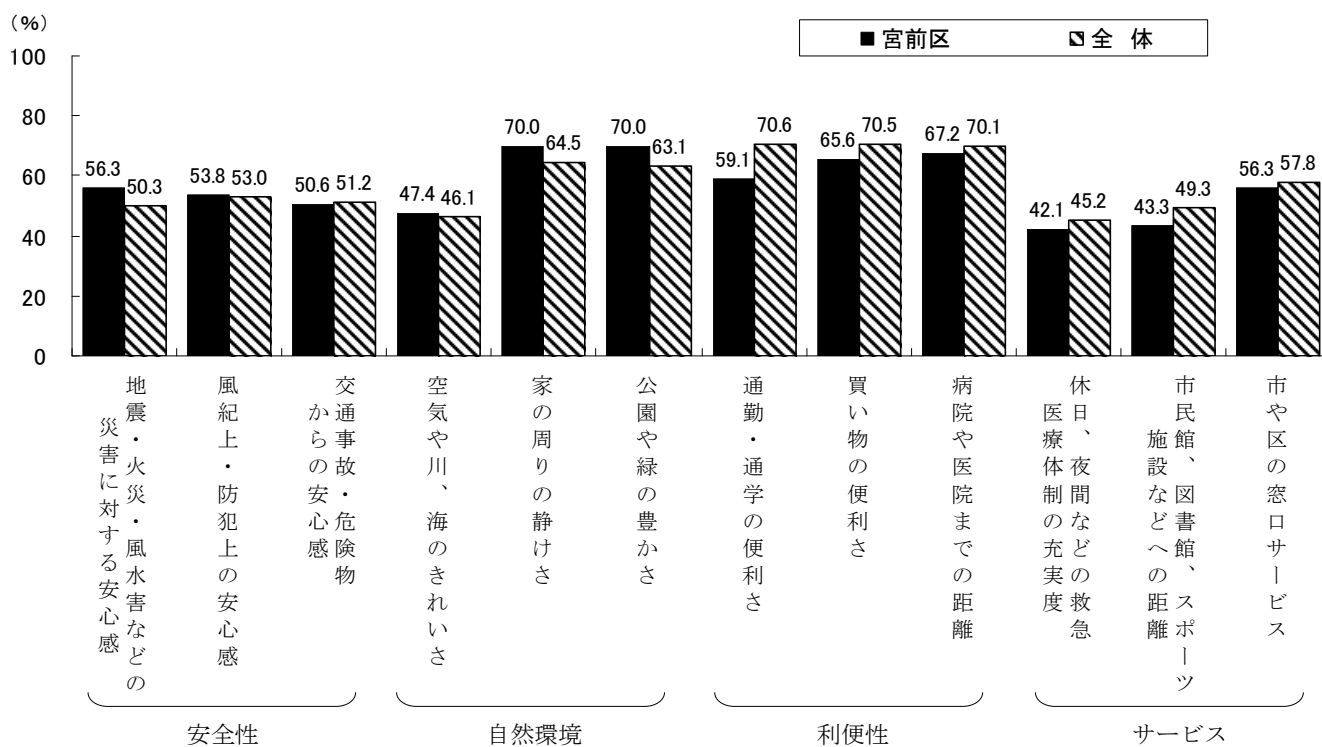
高津区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は1.7ポイントのプラス、「風紀上・防犯上の安心感」は0.9ポイントのマイナス、「交通事故・危険物からの安心感」は4.7ポイントのマイナスとなっている。『自然環境』、『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を下回っている。「空気や川、海のきれいさ」は3.6ポイント、「家の周りの静けさ」は2.4ポイント、「公園や緑の豊かさ」は5.6ポイント、「通勤・通学の便利さ」は1.1ポイント、「買い物の便利さ」は5.6ポイント、「病院や医院までの距離」は3.4ポイント下回っている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は5.4ポイントのマイナス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は4.6ポイントのマイナス、「市や区の窓口サービス」は1.6ポイントのプラスとなっている。(図表2-8)

図表2-9 生活環境の満足度 (<満足>、宮前区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
宮前区	56.3	53.8	50.6	47.4	70.0	70.0	59.1	65.6	67.2	42.1	43.3	56.3
全体	50.3	53.0	51.2	46.1	64.5	63.1	70.6	70.5	70.1	45.2	49.3	57.8

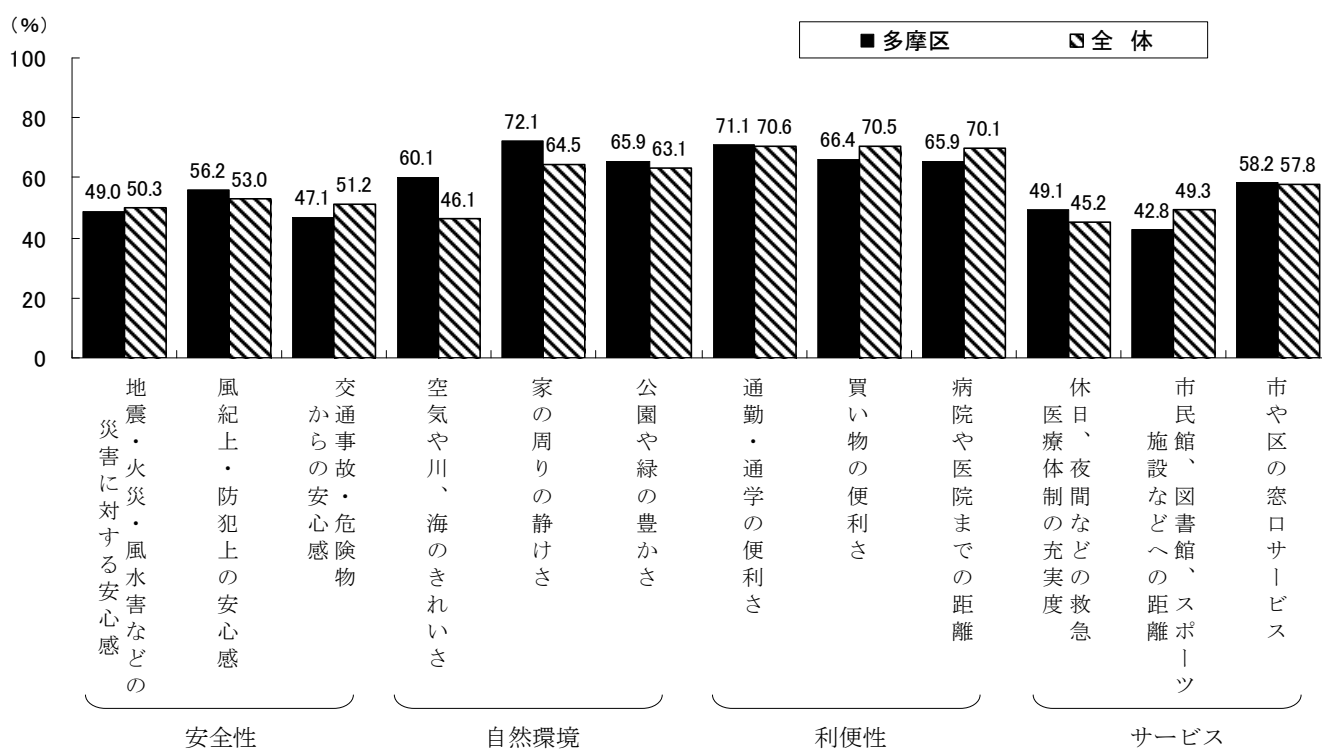


宮前区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は6.0ポイントのプラス、「風紀上・防犯上の安心感」は0.8ポイントのプラス、「交通事故・危険物からの安心感」は0.6ポイントのマイナスとなっている。『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は1.3ポイントのプラス、「家の周りの静けさ」は5.5ポイントのプラス、「公園や緑の豊かさ」は6.9ポイントのプラスとなっている。『利便性』、『サービス』ではどの項目も市全体の満足度を下回っている。「通勤・通学の便利さ」は11.5ポイント、「買い物の便利さ」は4.9ポイント、「病院や医院までの距離」は2.9ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は3.1ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は6.0ポイント、「市や区の窓口サービス」は1.5ポイント下回っている。(図表2-9)

図表2-10 生活環境の満足度 (<満足>、多摩区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
多摩区	49.0	56.2	47.1	60.1	72.1	65.9	71.1	66.4	65.9	49.1	42.8	58.2
全体	50.3	53.0	51.2	46.1	64.5	63.1	70.6	70.5	70.1	45.2	49.3	57.8

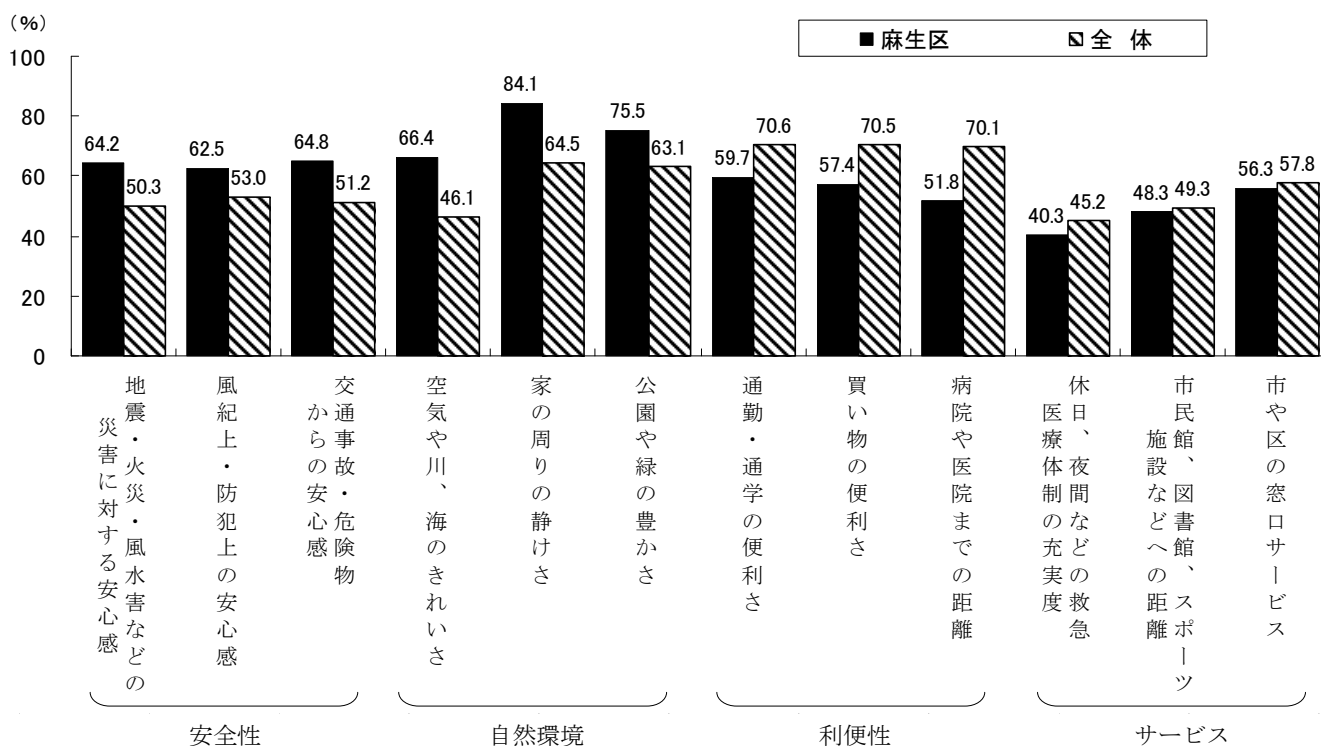


多摩区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は1.3ポイントのマイナス、「風紀上・防犯上の安心感」は3.2ポイントのプラス、「交通事故・危険物からの安心感」は4.1ポイントのマイナスとなっている。『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「空気や川、海のきれいさ」は14.0ポイント、「家の周りの静けさ」は7.6ポイント、「公園や緑の豊かさ」は2.8ポイント上回っている。『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」は0.5ポイントのプラス、「買い物の便利さ」は4.1ポイントのマイナス、「病院や医院までの距離」は4.2ポイントのマイナスとなっている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は3.9ポイントのプラス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は6.5ポイントのマイナス、「市や区の窓口サービス」は0.4ポイントのプラスとなっている。(図表2-10)

図表2-11 生活環境の満足度 (<満足>、麻生区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
麻生区	64.2	62.5	64.8	66.4	84.1	75.5	59.7	57.4	51.8	40.3	48.3	56.3
全体	50.3	53.0	51.2	46.1	64.5	63.1	70.6	70.5	70.1	45.2	49.3	57.8



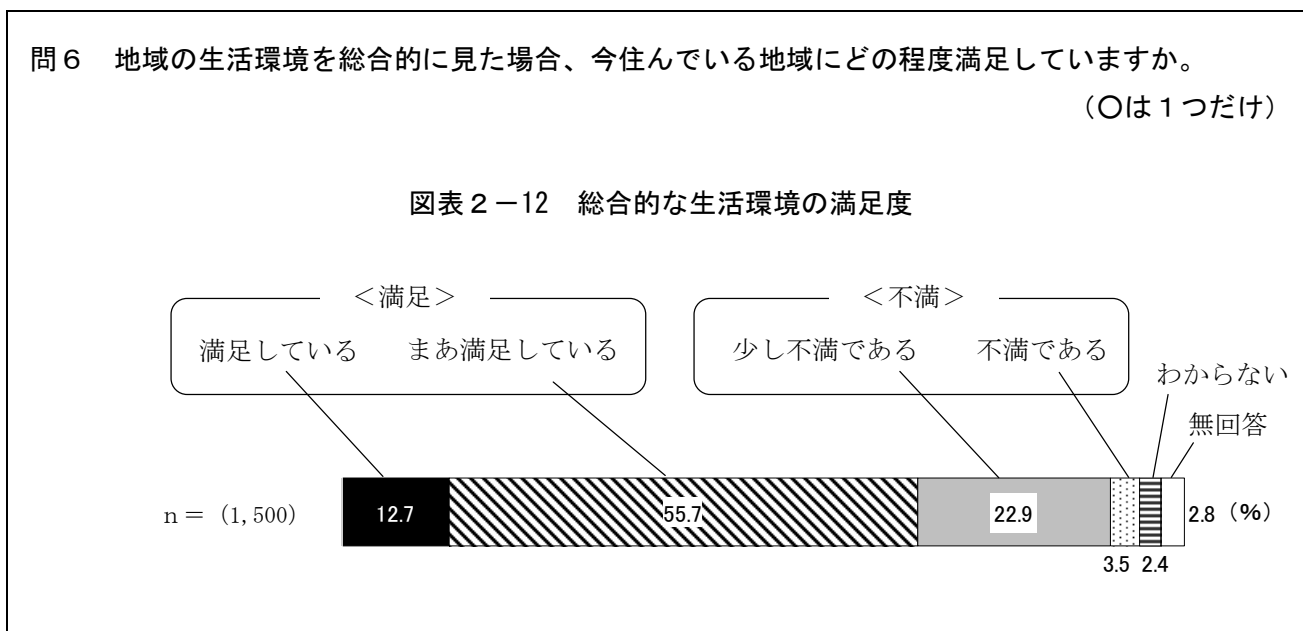
麻生区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。

「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は13.9ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は9.5ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は13.6ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は20.3ポイント、「家の周りの静けさ」は19.6ポイント、「公園や緑の豊かさ」は12.4ポイント上回っている。一方、『利便性』、『サービス』ではどの項目も市全体の満足度を下回っている。「通勤・通学の便利さ」は10.9ポイント、「買い物の便利さ」は13.1ポイント、「病院や医院までの距離」は18.3ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は4.9ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は1.0ポイント、「市や区の窓口サービス」は1.5ポイント下回っている。(図表2-11)



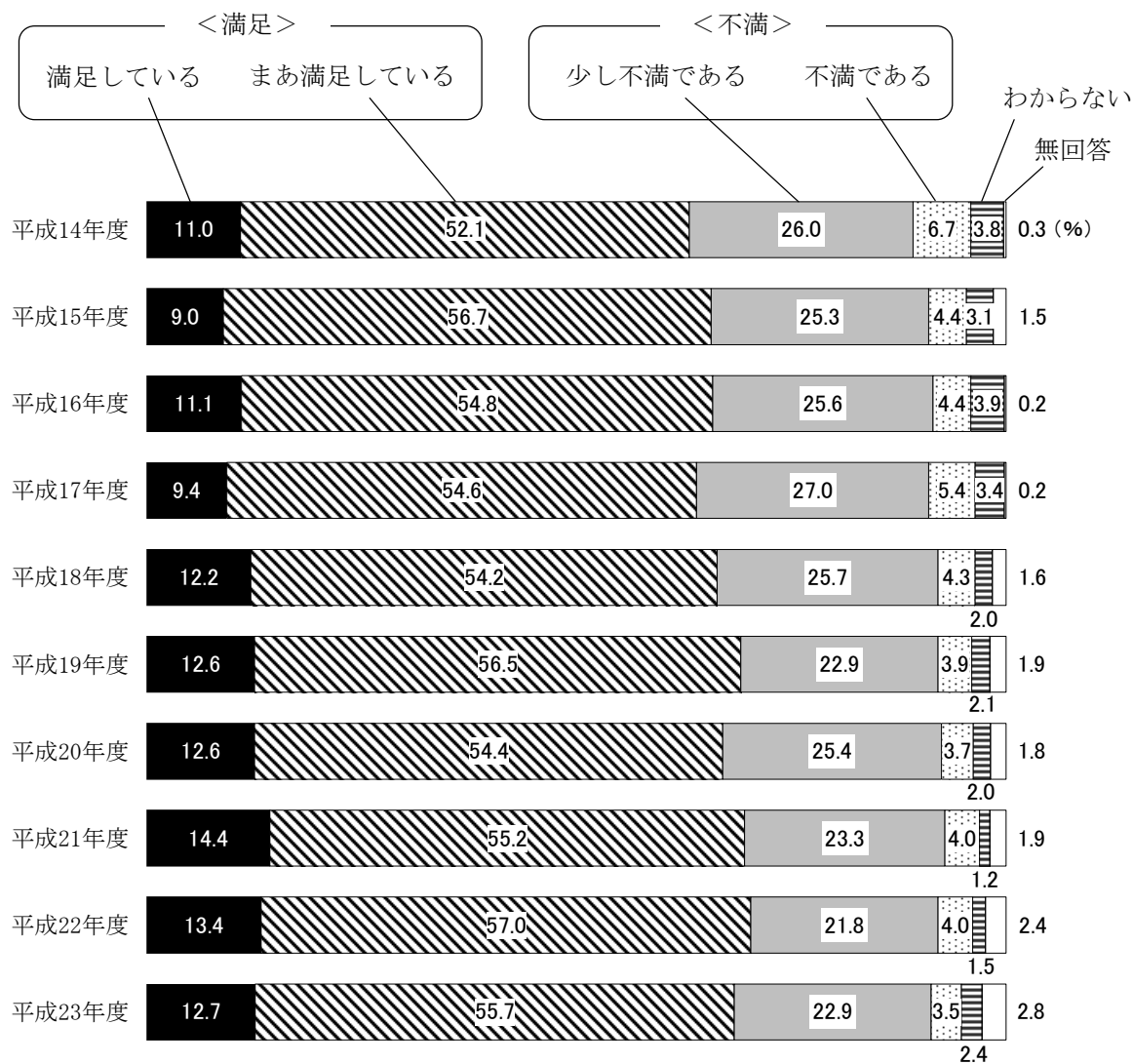
## 2-2 総合的な生活環境の満足度

◎<満足>が68.4%



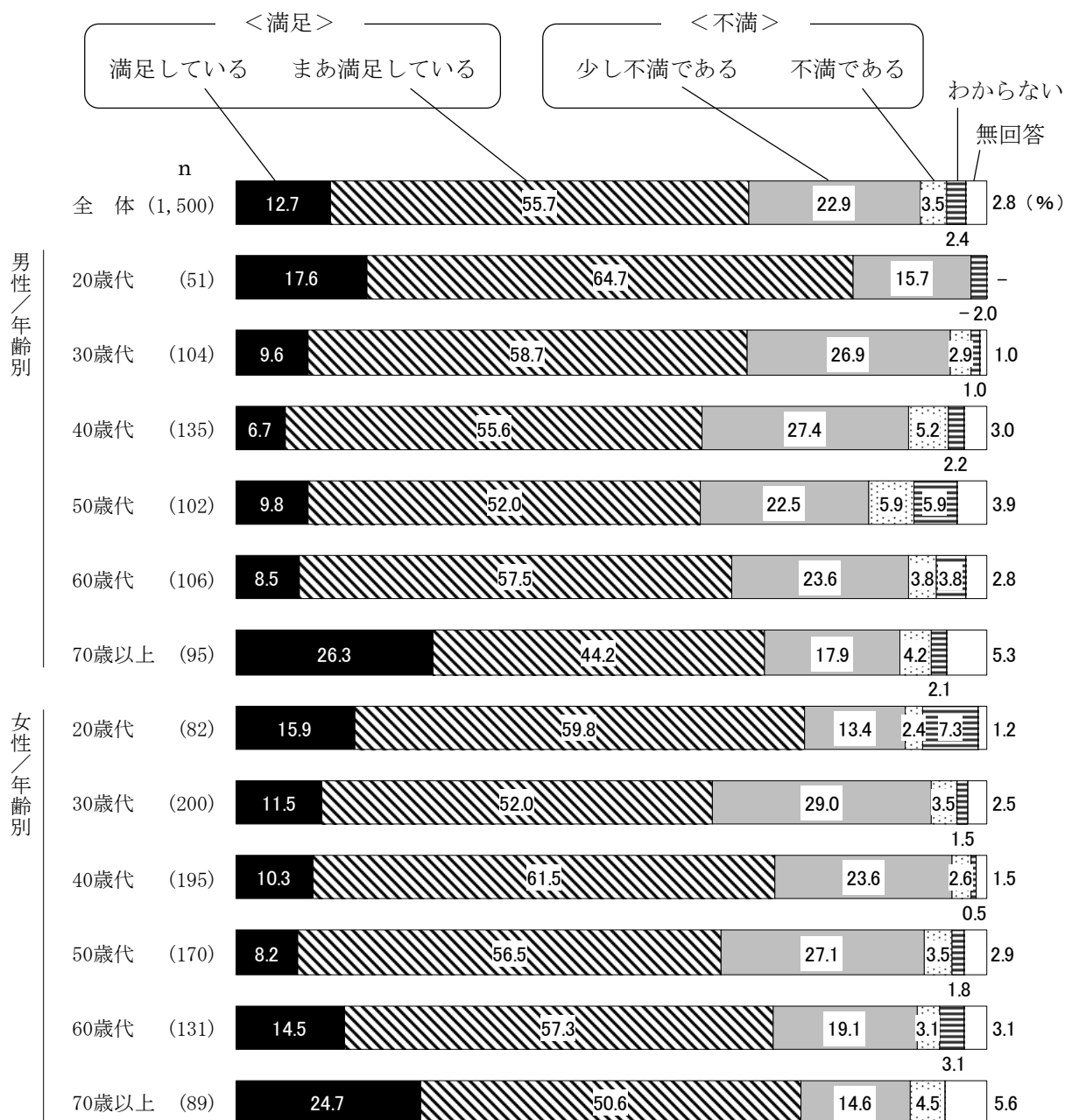
総合的な生活環境は、「満足している」(12.7%)と「まあ満足している」(55.7%)をあわせた<満足>は68.4%となっている。一方、「少し不満である」(22.9%)と「不満である」(3.5%)をあわせた<不満>は26.4%となっている。(図表2-12)

図表 2-13 総合的な生活環境の満足度（経年比較）



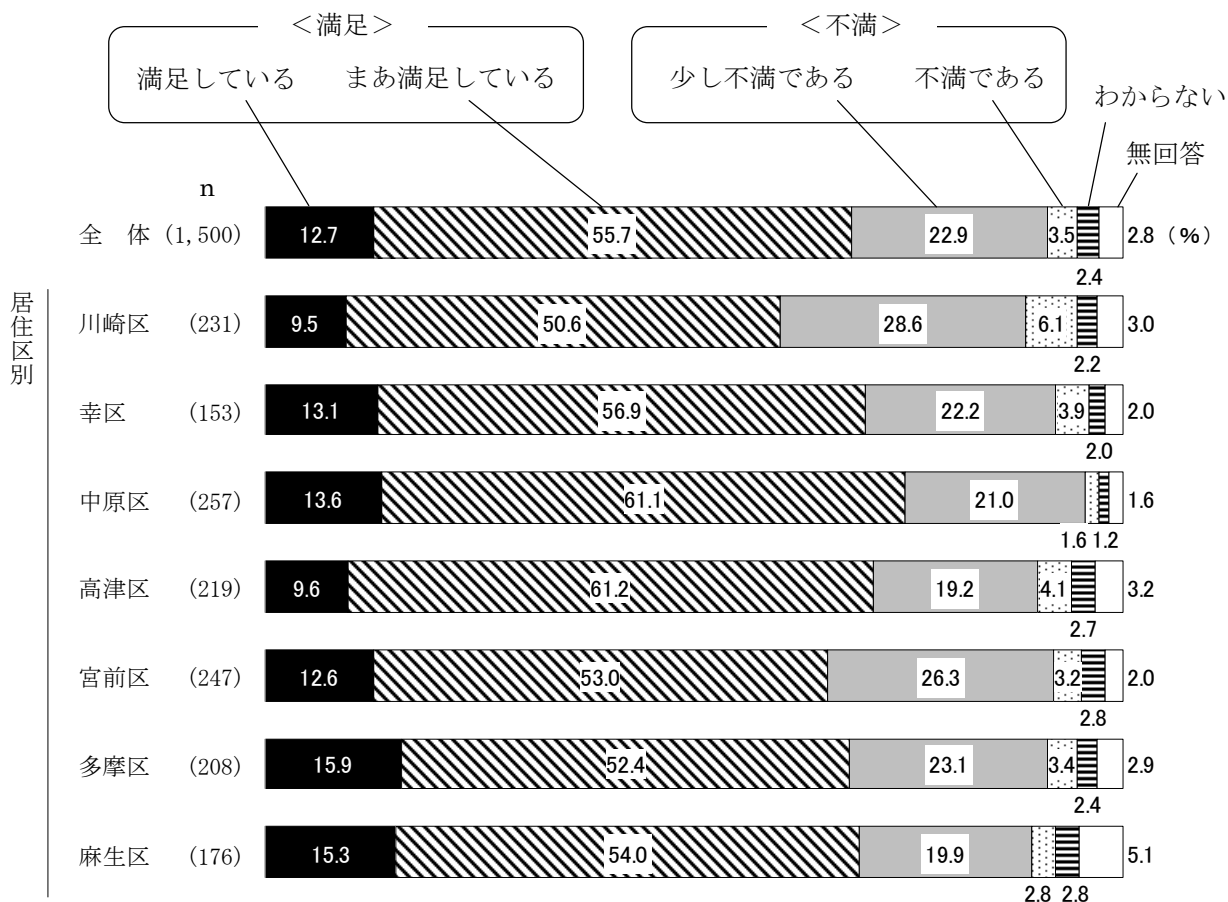
過去の推移では、＜満足＞は、平成14年度以降おおむね増加傾向にあり、平成22年度に初めて7割台に到達したが、平成23年度は2.0ポイント減少し再び6割台となっている。（図表2-13）

図表2-14 総合的な生活環境の満足度(性/年齢別)



性/年齢別では、＜満足＞は、男性では20歳代(82.3%)が8割台と最も多くなっている。次いで、70歳以上(70.5%)、30歳代(68.3%)の順となっている。女性でも20歳代(75.7%)が最も多くなっている。次いで、70歳以上(75.3%)、40歳代・60歳代(71.8%)の順となっている。一方、＜不満＞は、男性では40歳代(32.6%)が、女性では30歳代(32.5%)が最も多くなっている。(図表2-14)

図表 2-15 総合的な生活環境の満足度 (居住区別)



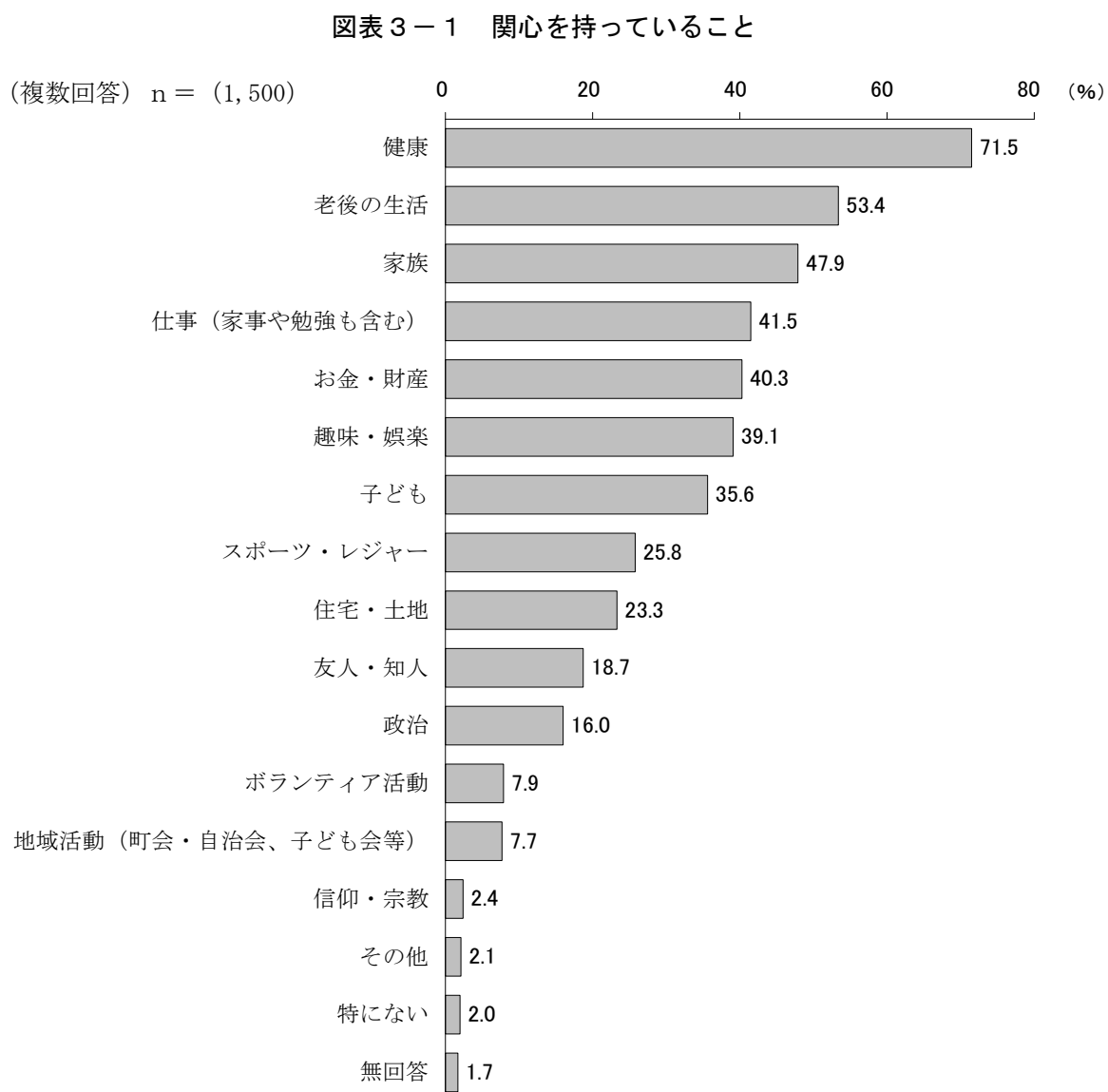
居住区別では、<満足>は、中原区(74.7%)と最も多くなっている。次いで、高津区(70.8%)、幸区(70.0%)の順となっている。<不満>は、川崎区(34.7%)が最も多くなっている。次いで、宮前区(29.5%)、多摩区(26.5%)の順となっている。(図表2-15)

## 3 関心ごとと行動範囲について

### 3-1 関心を持っていること

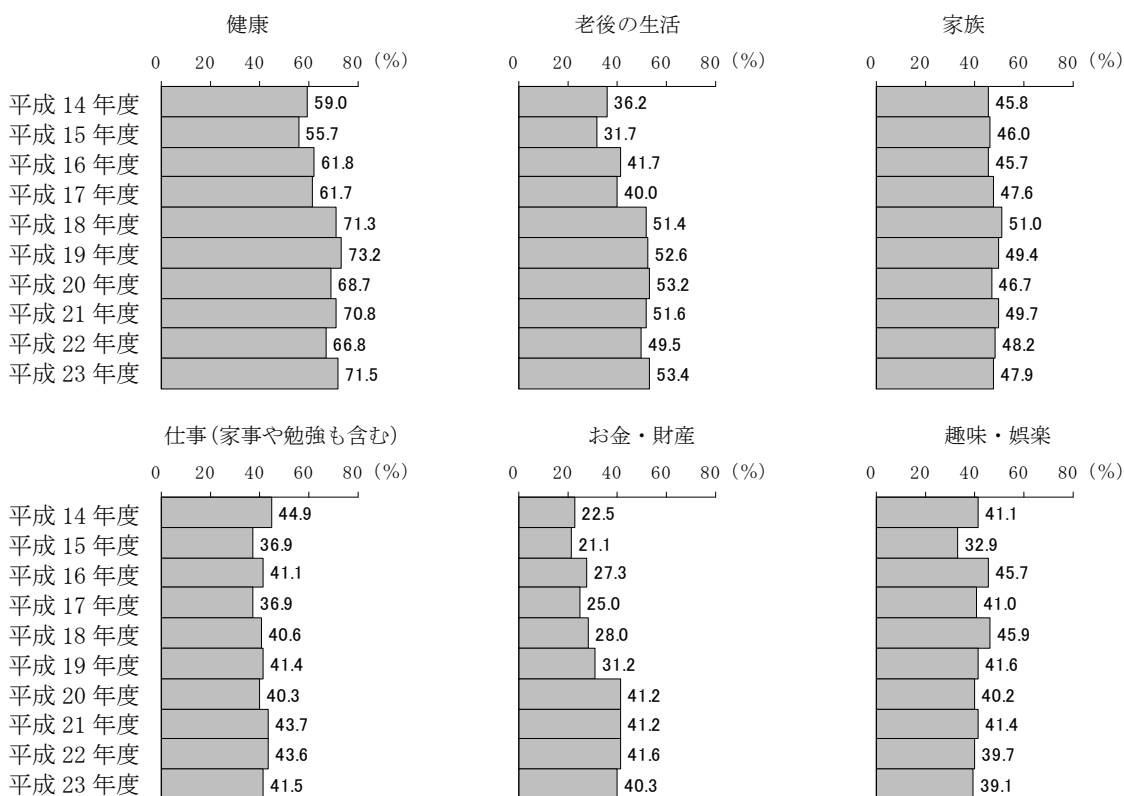
◎「健康」が71.5%

問7 現在特に関心をお持ちのことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



関心を持っていることは、「健康」(71.5%)が最も多くなっている。次いで、「老後の生活」(53.4%)、「家族」(47.9%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(41.5%)、「お金・財産」(40.3%)、「趣味・娯楽」(39.1%)の順となっている。(図表3-1)

図表3-2 関心を持っていること（経年比較、上位6項目）



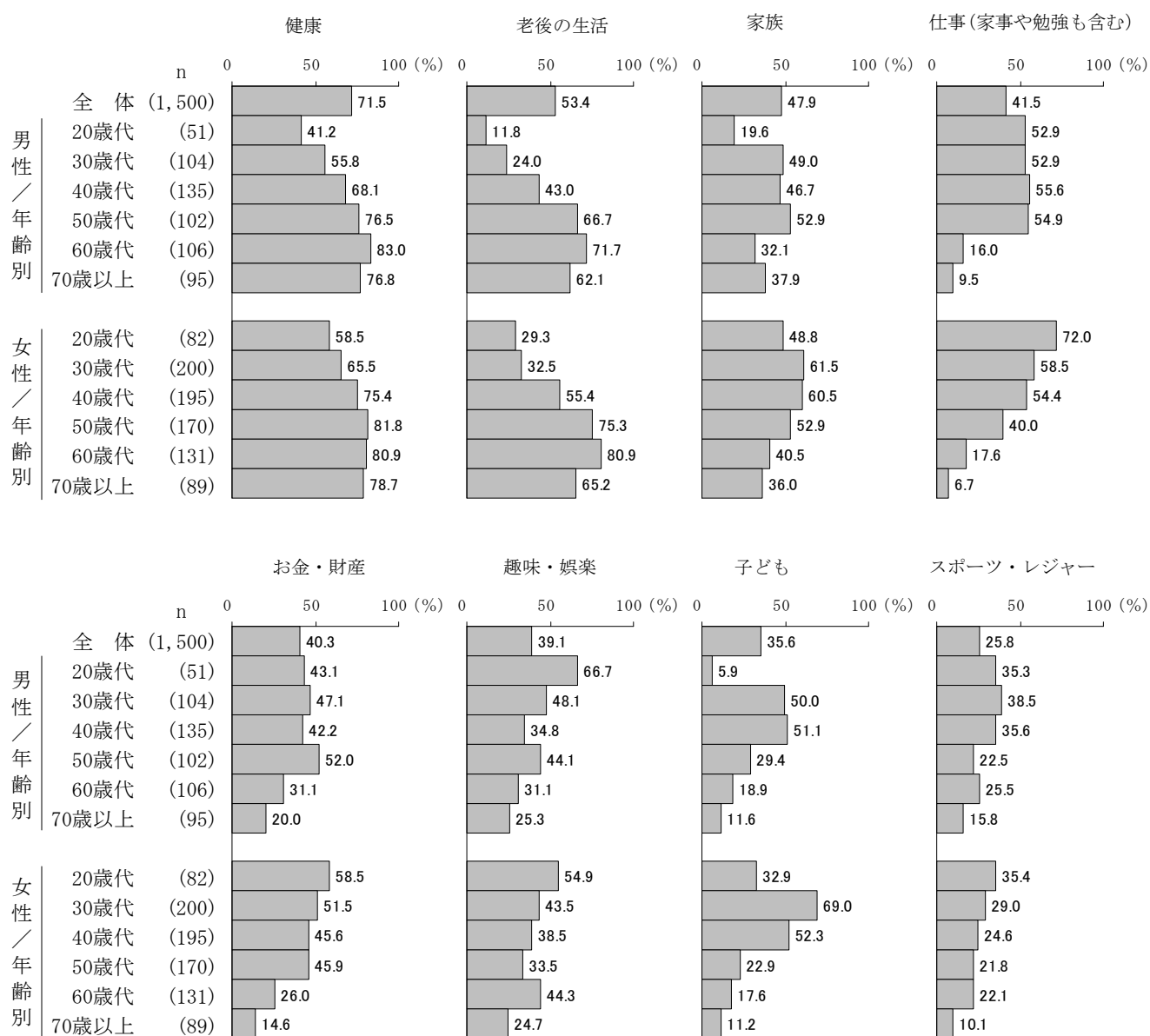
(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成14年度	健康 59.0	家族 45.8	仕事(家事や勉強も含む) 44.9	趣味・娯楽 41.1	老後の生活 36.2	子ども 34.4
平成15年度	健康 55.7	家族 46.0	仕事(家事や勉強も含む) 36.9	子ども 34.1	趣味・娯楽 32.9	老後の生活 31.7
平成16年度	健康 61.8	家族/趣味・娯楽 45.7	老後の生活 41.7	仕事(家事や勉強も含む) 41.1	子ども 34.5	
平成17年度	健康 61.7	家族 47.6	趣味・娯楽 41.0	老後の生活 40.0	子ども 37.7	仕事(家事や勉強も含む) 36.9
平成18年度	健康 71.3	老後の生活 51.4	家族 51.0	趣味・娯楽 45.9	仕事(家事や勉強も含む) 40.6	子ども 35.5
平成19年度	健康 73.2	老後の生活 52.6	家族 49.4	趣味・娯楽 41.6	仕事(家事や勉強も含む) 41.4	子ども 34.0
平成20年度	健康 68.7	老後の生活 53.2	家族 46.7	お金・財産 41.2	仕事(家事や勉強も含む) 40.3	趣味・娯楽 40.2
平成21年度	健康 70.8	老後の生活 51.6	家族 49.7	仕事(家事や勉強も含む) 43.7	趣味・娯楽 41.4	お金・財産 41.2
平成22年度	健康 66.8	老後の生活 49.5	家族 48.2	仕事(家事や勉強も含む) 43.6	お金・財産 41.6	趣味・娯楽 39.7
平成23年度	健康 71.5	老後の生活 53.4	家族 47.9	仕事(家事や勉強も含む) 41.5	お金・財産 40.3	趣味・娯楽 39.1

注：「お金・財産」は平成19年度調査までは「金・財産」であった。

上位の6項目について、平成14年度以降を比較した。平成22年度と比較すると、上位6項目に順位の変動は無い。なお、上位2項目（「健康」「老後の生活」）はそれぞれポイントが増加している。（図表3-2）

図表3-3 関心を持っていること(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「健康」および「老後の生活」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているが、70歳以上ではやや少なくなっている。「家族」は、男性では50歳代(52.9%)、女性では30歳代(61.5%)、40歳代(60.5%)が多くなっている。「仕事(家事や勉強も含む)」は、男性では20歳代から50歳代が5割台と多くっており、女性では20歳代(72.0%)が7割台、30歳代(58.5%)、40歳代(54.4%)で5割台と多くなっている。「お金・財産」は、男性では50歳代(52.0%)、女性では20歳代(58.5%)が最も多くなっている。「趣味・娯楽」は、男女ともに20歳代(男性:66.7%、女性:54.9%)が最も多くなっている。「子ども」は、男性では30歳代(50.0%)、40歳代(51.1%)が5割台と多くっており、女性では30歳代(69.0%)が6割台後半、40歳代(52.3%)が5割台と多くなっている。「スポーツ・レジャー」は、男性では20歳代から40歳代で3割台半ばから3割台後半と多くっており、女性では20歳代(35.4%)が3割台半ばと最も多くなっている。(図表3-3)

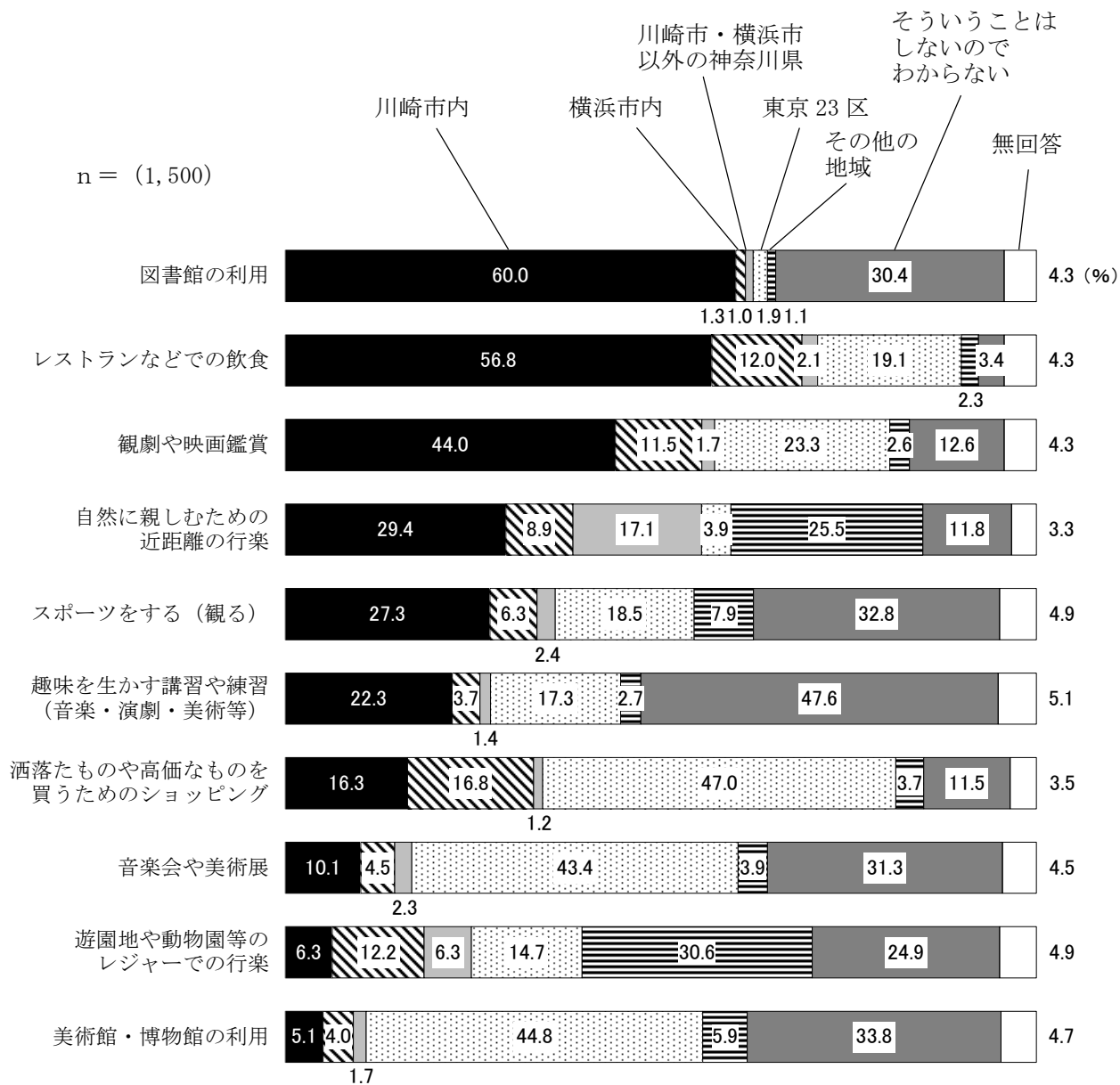
### 3-2 行動範囲

◎『川崎市内』で多いのは、「図書館の利用」60.0%、「レストランなどでの飲食」56.8%

問8 行楽や文化施設の利用・ショッピングなどをされる場合、主にどこに行かれますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

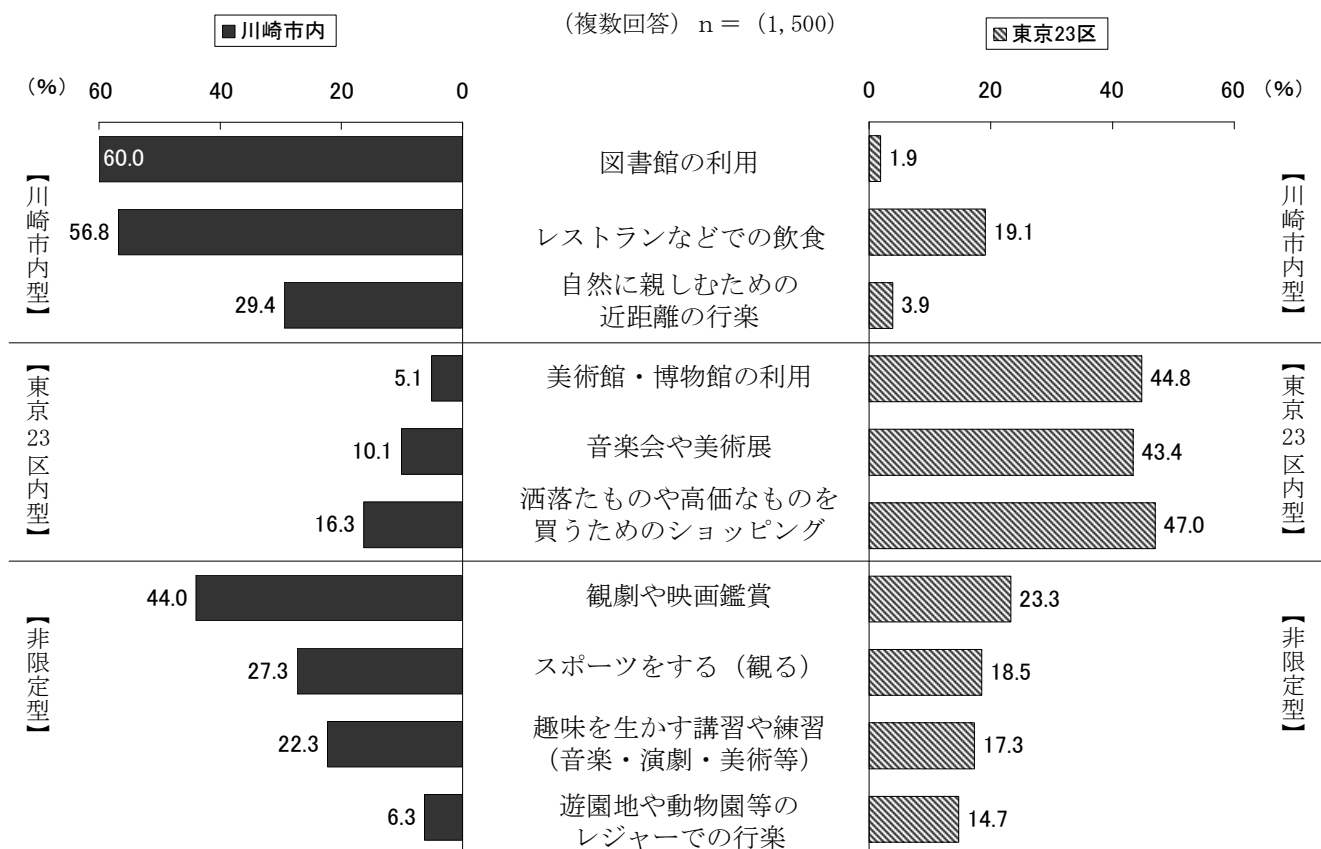
図表3-4 行動範囲



川崎市民の行動範囲で『川崎市内』が最も多かったのは、「図書館の利用」(60.0%)となっている。次いで、「レストランなどでの飲食」(56.8%)、「観劇や映画鑑賞」(44.0%)の順となっている。一方、『東京23区』が最も多かったのは、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(47.0%)となっている。次いで、「美術館・博物館の利用」(44.8%)、「音楽会や美術展」(43.4%)の順となっている。(図表3-4)



図表3-5 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』との比較)



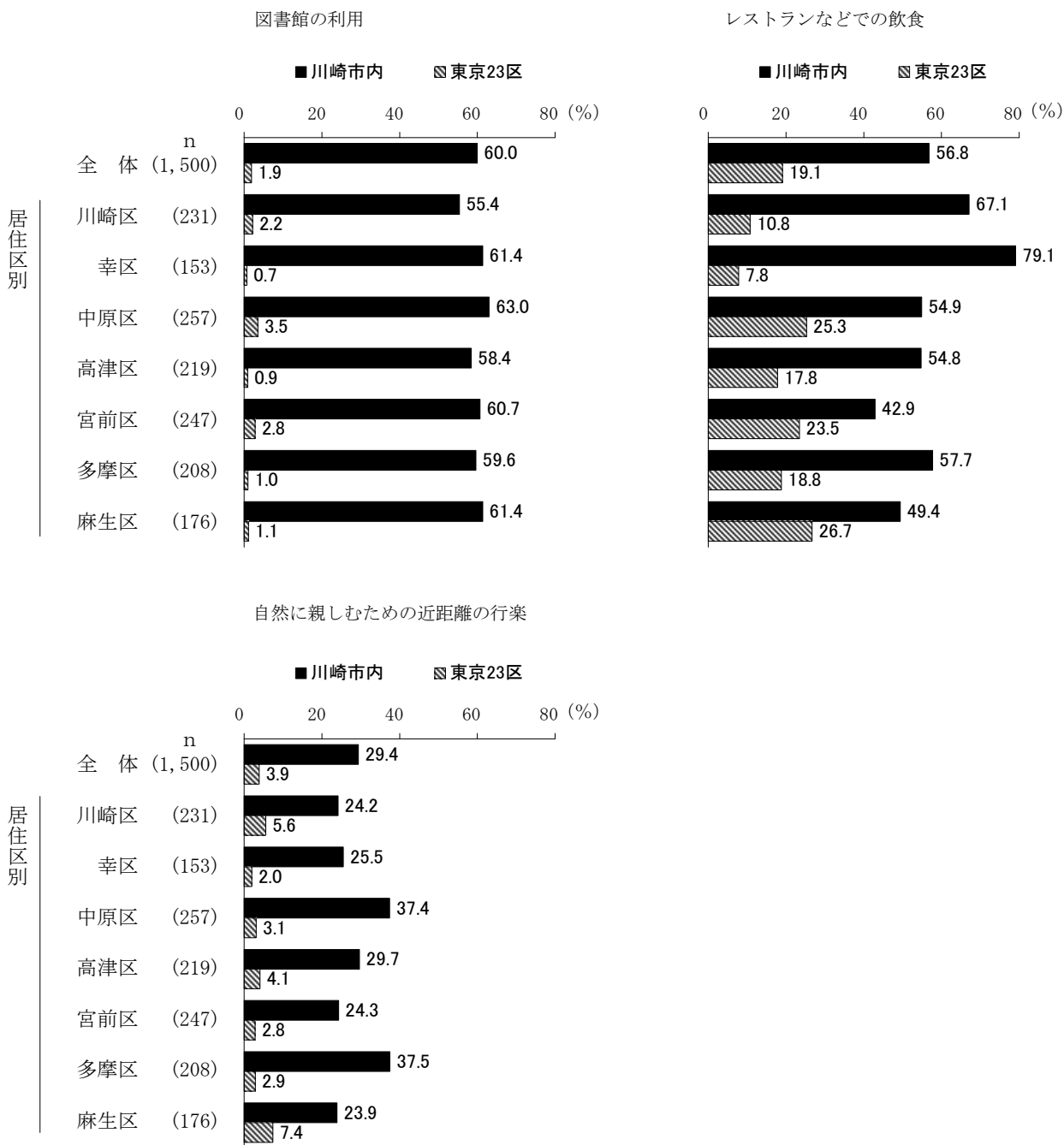
各項目について、行動範囲別に【川崎市内型】、【東京23区内型】、【非限定型】に分類すると以下ようになる。(図表3-5)

【川崎市内型】 …… 図書館の利用  
レストランなどでの飲食  
自然に親しむための近距離の行楽

【東京23区内型】 …… 美術館・博物館の利用  
音楽会や美術展  
洒落たものや高価なものを買うためのショッピング

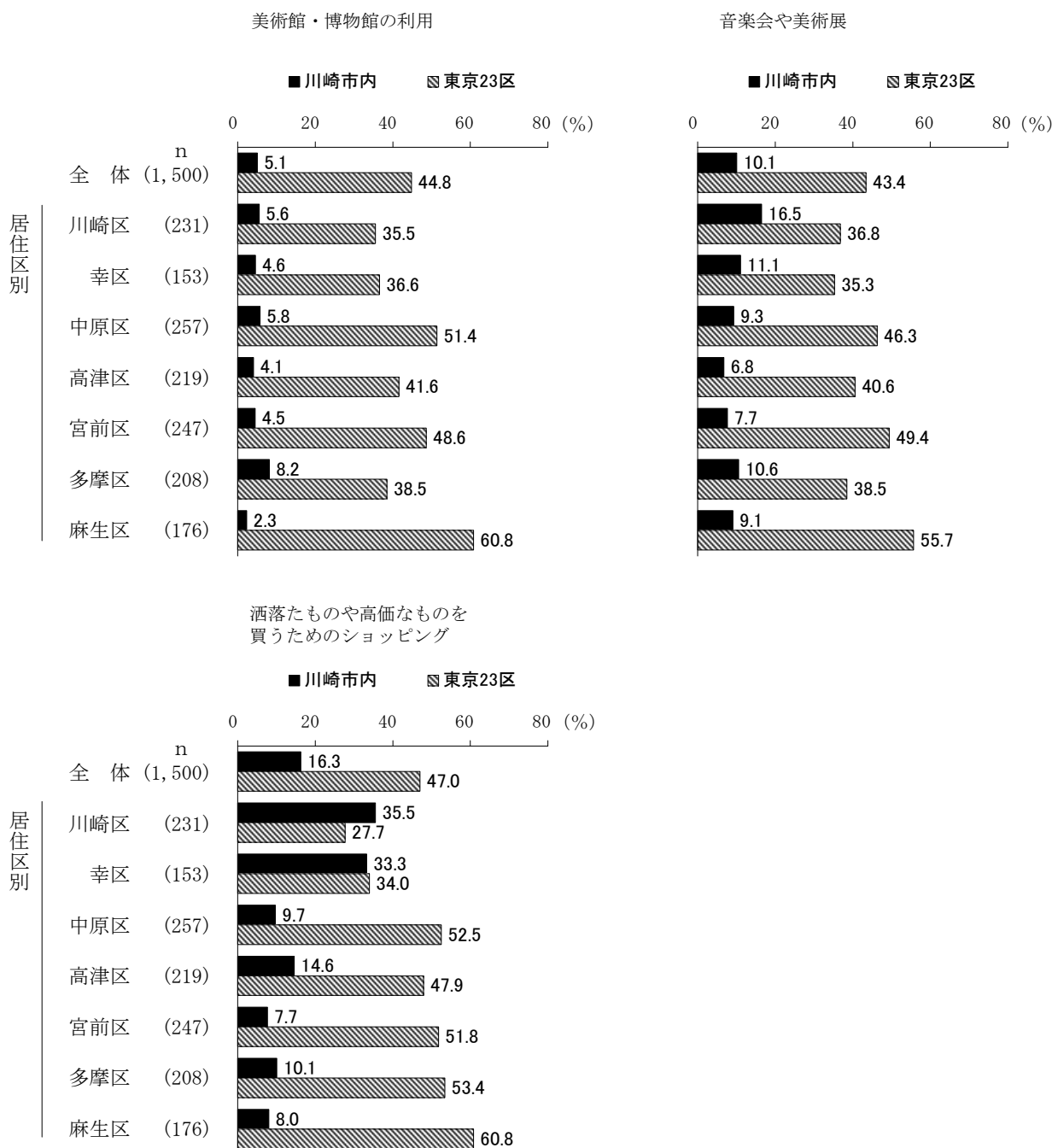
【非限定型】 …… 観劇や映画鑑賞  
スポーツをする(観る)  
趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)  
遊園地や動物園等のレジャー施設での行楽

図表3-6 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別【川崎市内型】



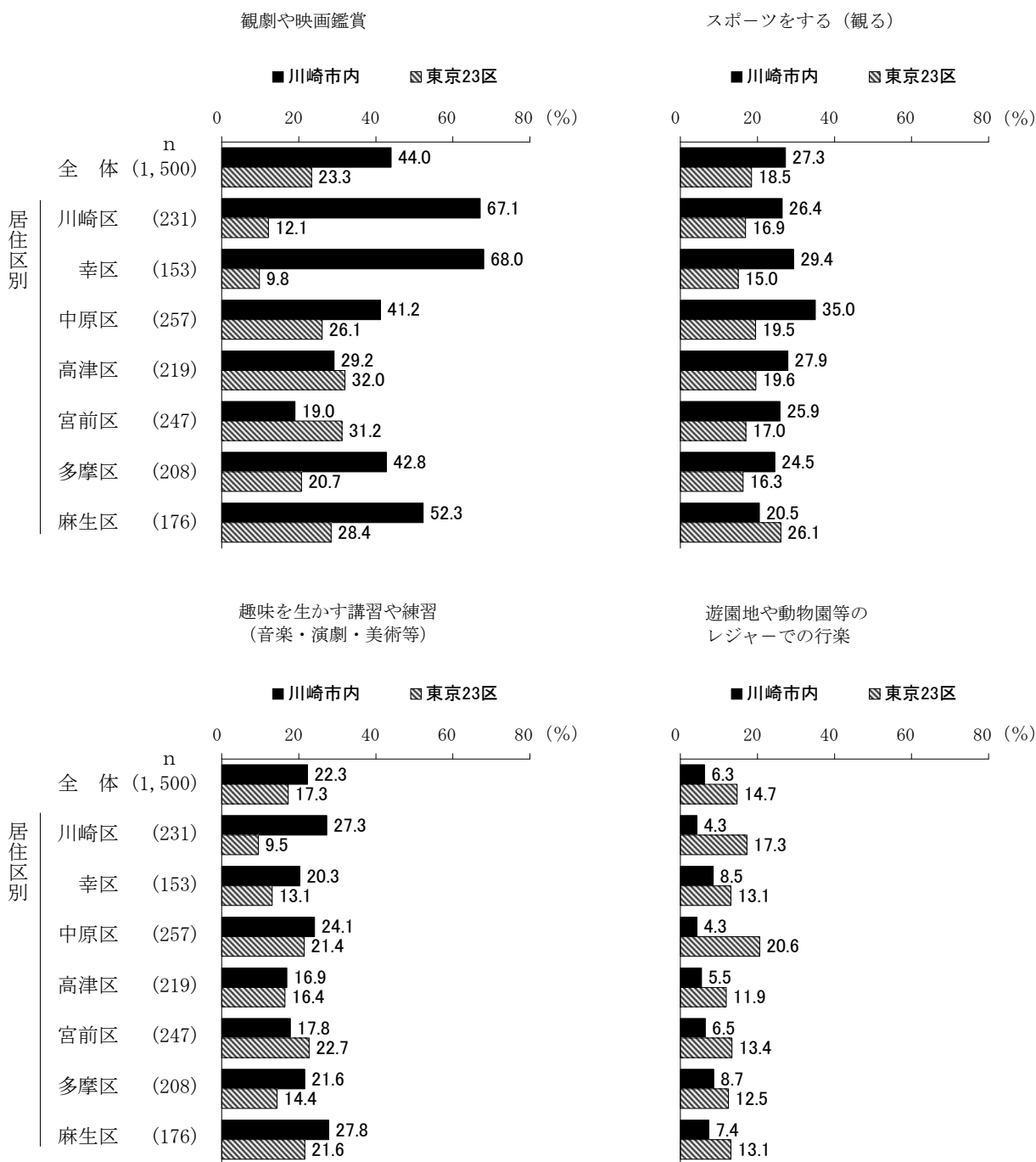
【川崎市内型】に分類した『川崎市内』での利用率が高い3項目を、居住区別で比較すると、「図書館の利用」は、中原区(63.0%)が最も多くなっており、『東京23区』の利用率は、いずれの居住区においても1割未満と少なくなっている。「レストランなどでの飲食」は、幸区(79.1%)が最も多くなっており、『東京23区』の利用率が最も高いのは麻生区(26.7%)となっている。「自然に親しむための近距離の行楽」は、多摩区(37.5%)が最も多くなっており、『東京23区』の利用率は、いずれの居住区においても1割未満と少なくなっている。(図表3-6)

図表3-7 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別【東京23区内型】



【東京23区内型】に分類した『東京23区』での利用率が高い3項目を、居住区別で比較すると、「美術館・博物館の利用」は、麻生区(60.8%)が最も多くなっており、『川崎市内』の利用率は、いずれの居住区においても1割未満と少なくなっている。「音楽会や美術展」は、麻生区(55.7%)が最も多くなっており、『川崎市内』の利用率が最も高いのは川崎区(16.5%)となっている。「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」は、麻生区(60.8%)が最も多くなっている。なお、川崎区では『川崎市内』の利用率が35.5%と多く、『東京23区』の利用率の27.7%を上回っている。(図表3-7)

図表3-8 行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』）との比較、居住区別【非限定型】



『川崎市内』や『東京23区』に限らず平均的な利用があると思われる【非限定型】4項目を、居住区別で比較すると、「観劇や映画鑑賞」は、川崎区、幸区で『川崎市内』の割合が6割台後半と多くなっている。「スポーツをする（観る）」は、麻生区で『東京23区』が『川崎市内』を上回っている。「趣味を生かす講習や練習（音楽・演劇・美術等）」は、宮前区で『東京23区』が『川崎市内』を上回っている。「遊園地や動物園のレジャー施設での行楽」は、いずれの居住区においても『東京23区』が『川崎市内』を上回っている。（図表3-8）



## 4 市政に対する評価と要望について

### 4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

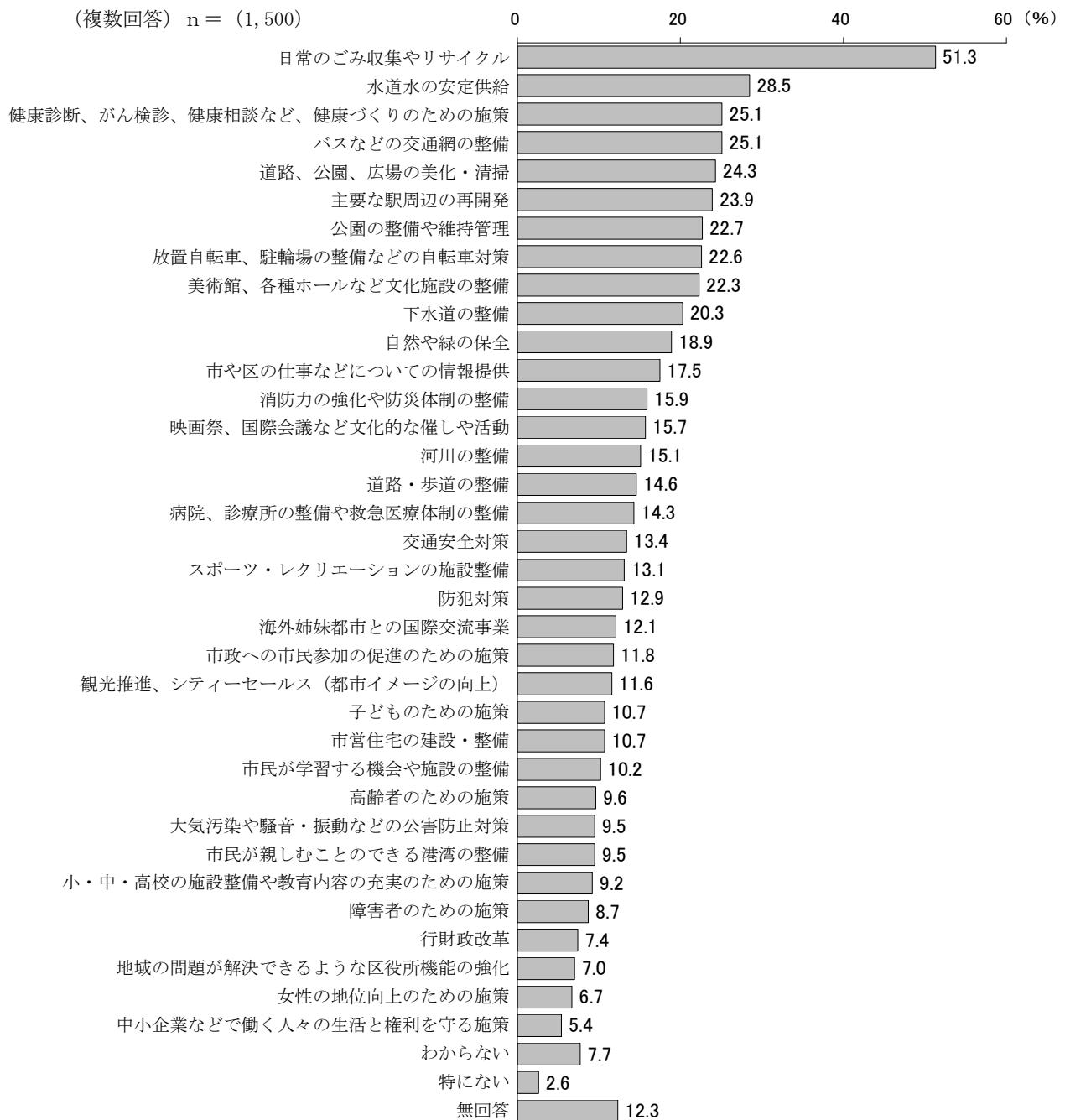
◎「日常のごみ収集やリサイクル」が51.3%

問9 市政について総合的にうかがいます。

次にあげる仕事の中で、よくやっていると思われるものは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)

図表4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

(複数回答) n = (1,500)



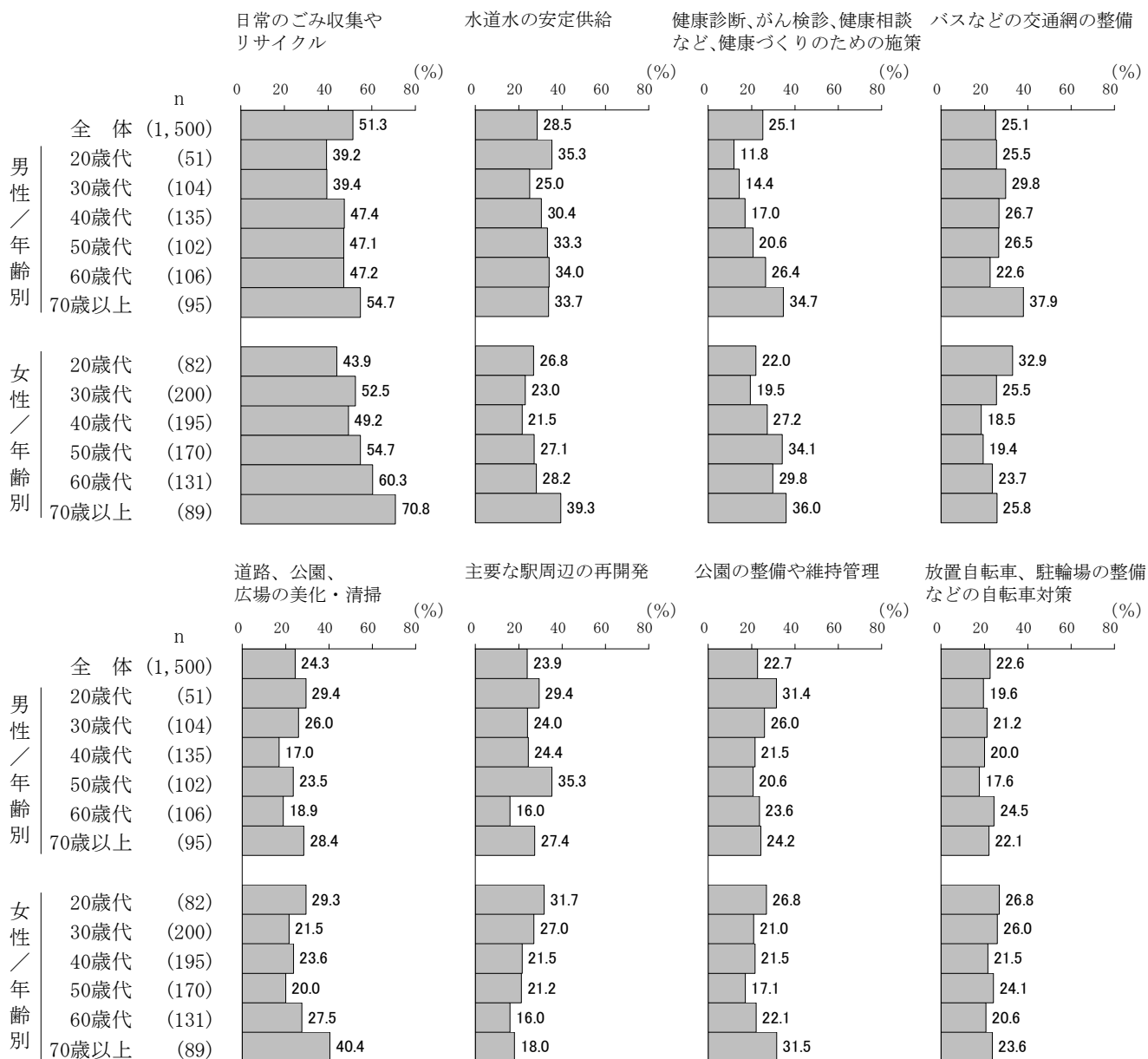
市政の仕事でよくやっていると思うことは、「日常のごみ収集やリサイクル」(51.3%)が最も多くなっている。次いで、「水道水の安定供給」(28.5%)、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」「バスなどの交通網の整備」(25.1%)の順となっている。(図表4-1)

図表4-2 市政の仕事でよくやっていると思うこと(前年比較) (%)

	平成23年度	平成22年度
日常のごみ収集やリサイクル	51.3	47.1
水道水の安定供給	28.5	30.4
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	25.1	21.3
バスなどの交通網の整備	25.1	24.5
道路、公園、広場の美化・清掃	24.3	23.2
主要な駅周辺の再開発	23.9	23.0
公園の整備や維持管理	22.7	22.8
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	22.6	24.2
美術館、各種ホールなど文化施設の整備	22.3	22.5
下水道の整備	20.3	19.4
自然や緑の保全	18.9	19.0
市や区の仕事などについての情報提供	17.5	17.5
消防力の強化や防災体制の整備	15.9	15.2
映画祭、国際会議など文化的な催しや活動	15.7	17.0
河川の整備	15.1	13.7
道路・歩道の整備	14.6	16.4
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	14.3	13.4
交通安全対策	13.4	14.0
スポーツ・レクリエーションの施設整備	13.1	13.0
防犯対策	12.9	12.2
海外姉妹都市との国際交流事業	12.1	11.8
市政への市民参加の促進のための施策	11.8	11.2
観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)	11.6	10.5
子どものための施策	10.7	10.8
市営住宅の建設・整備	10.7	10.4
市民が学習する機会や施設の整備	10.2	11.1
高齢者のための施策	9.6	8.7
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	9.5	8.9
市民が親しむことのできる港湾の整備	9.5	10.4
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	9.2	10.1
障害者のための施策	8.7	8.5
行財政改革	7.4	8.4
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	7.0	7.8
女性の地位向上のための施策	6.7	6.2
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	5.4	4.4
わからない	7.7	10.7
特になし	2.6	4.0
無回答	12.3	12.6

平成22年度と比較すると、「日常のごみ収集やリサイクル」(51.3%)が4.2ポイント、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(25.1%)が3.8ポイント、「河川の整備」(15.1%)が1.4ポイント上回っている。一方、「水道水の安定供給」(28.5%)が1.9ポイント、「道路・歩道の整備」(14.6%)が1.8ポイント、「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」(22.6%)が1.6ポイント下回っている。(図表4-2)

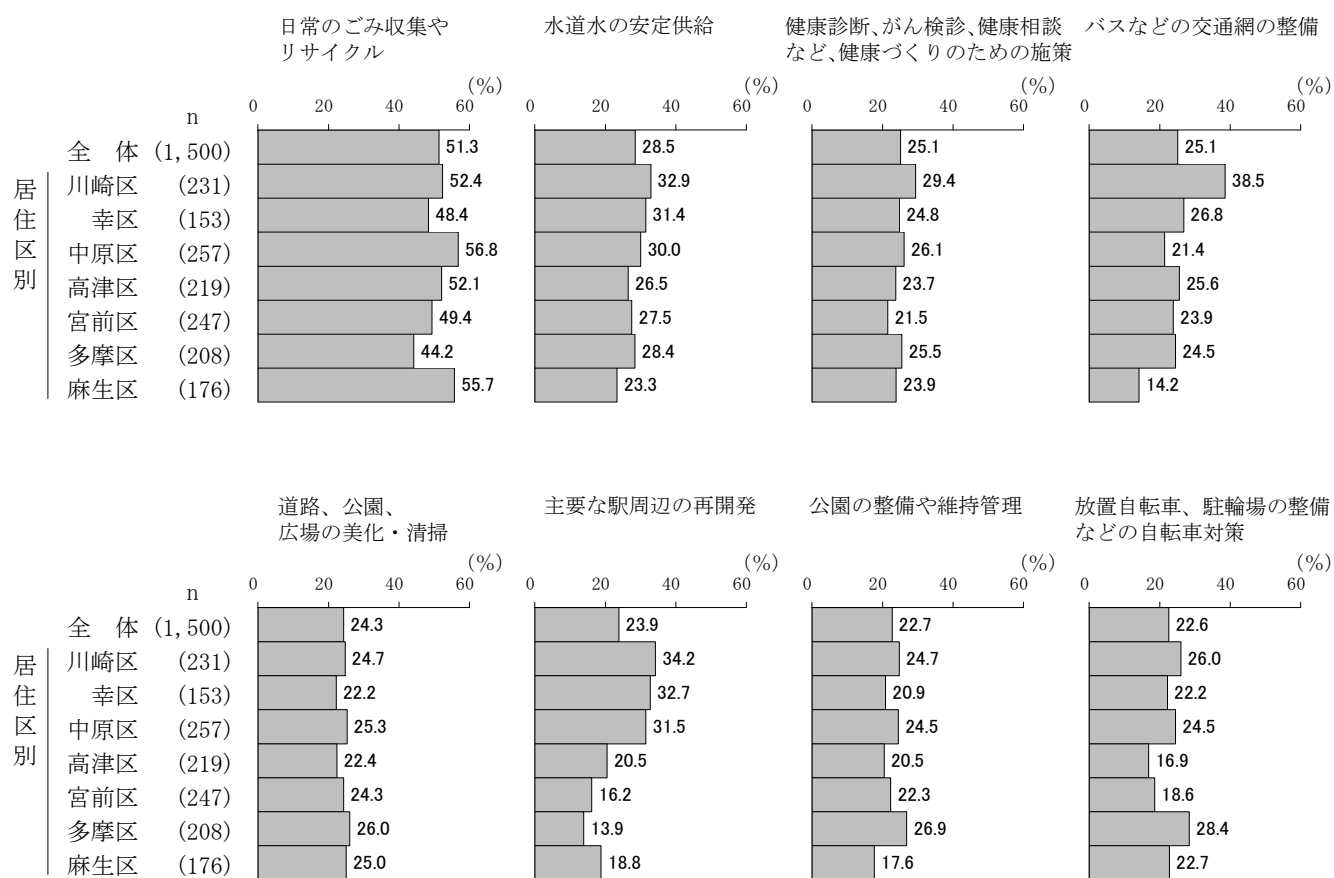
図表4-3 市政の仕事でよくやっていると思うこと(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「水道水の安定供給」は、女性70歳以上(39.3%)が最も多くなっている。「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「バスなどの交通網の整備」は、男性では70歳以上(37.9%)、女性では20歳代(32.9%)が最も多くなっている。「主要な駅周辺の再開発」は、男性では50歳代(35.3%)、女性では20歳代(31.7%)が最も多くなっている。(図表4-3)



図表4-4 市政の仕事でよくやっていると思うこと（居住区別、上位8項目）



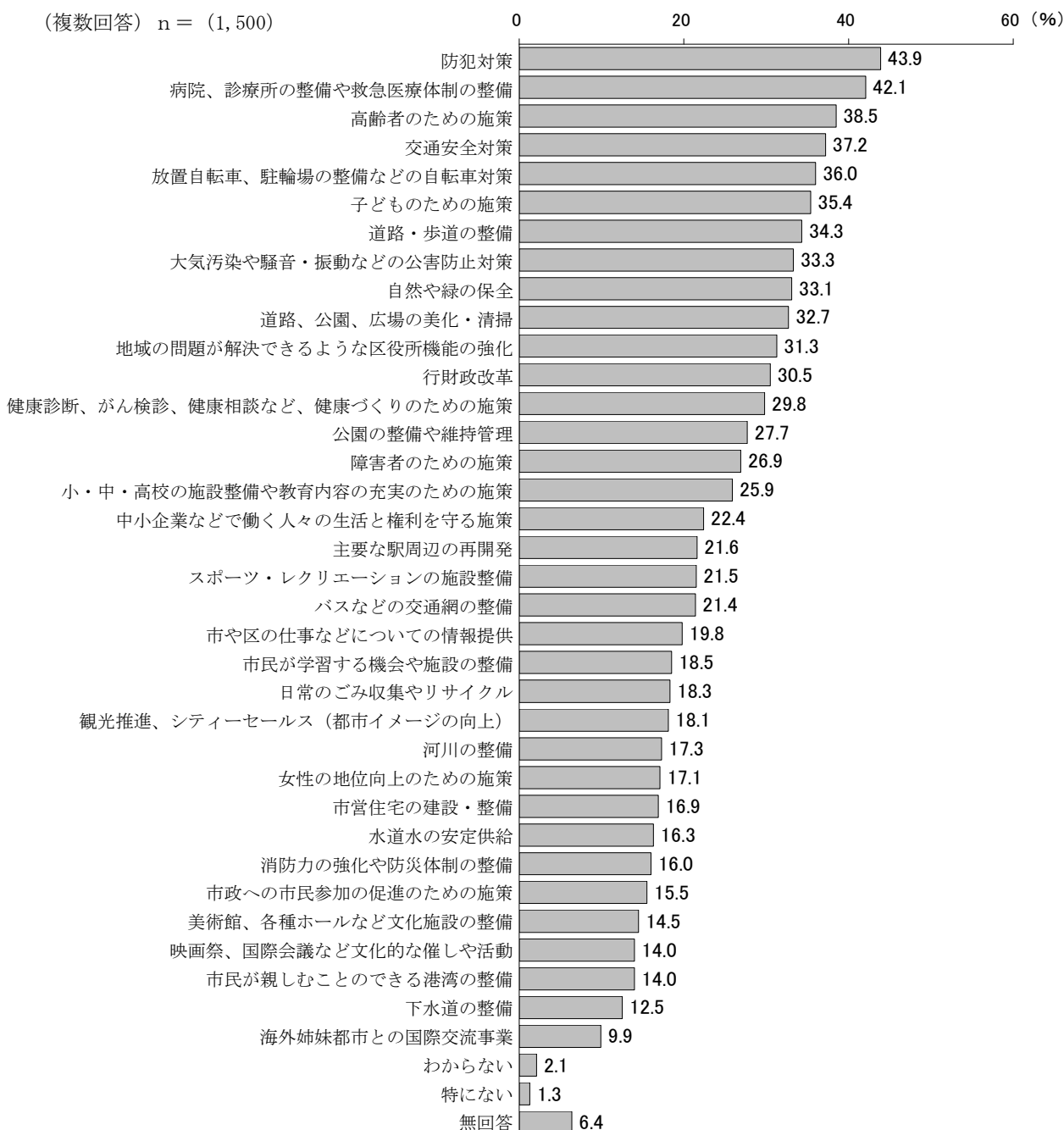
居住区別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、中原区（56.8%）、麻生区（55.7%）が5割台半ばと多くなっている一方、多摩区（44.2%）では4割台半ばと最も少なくなっている。「水道水の安定供給」は、川崎区（32.9%）が最も多く、麻生区（23.3%）が最も少なくなっている。「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」は、川崎区（29.4%）が最も多く、宮前区（21.5%）が最も少なくなっている。「バスなどの交通網の整備」は、川崎区（38.5%）が3割台後半と最も多く、麻生区（14.2%）が1割台半ばと最も少なくなっている。（図表4-4）

## 4-2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

◎「防犯対策」が43.9%、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」が42.1%

問10 また、今後特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)

図表4-5 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと



市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことは、「防犯対策」(43.9%)が最も多くなっている。次いで、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(42.1%)、「高齢者のための施策」(38.5%)、「交通安全対策」(37.2%)、「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」(36.0%)、「子どものための施策」(35.4%)の順となっている。(図表4-5)

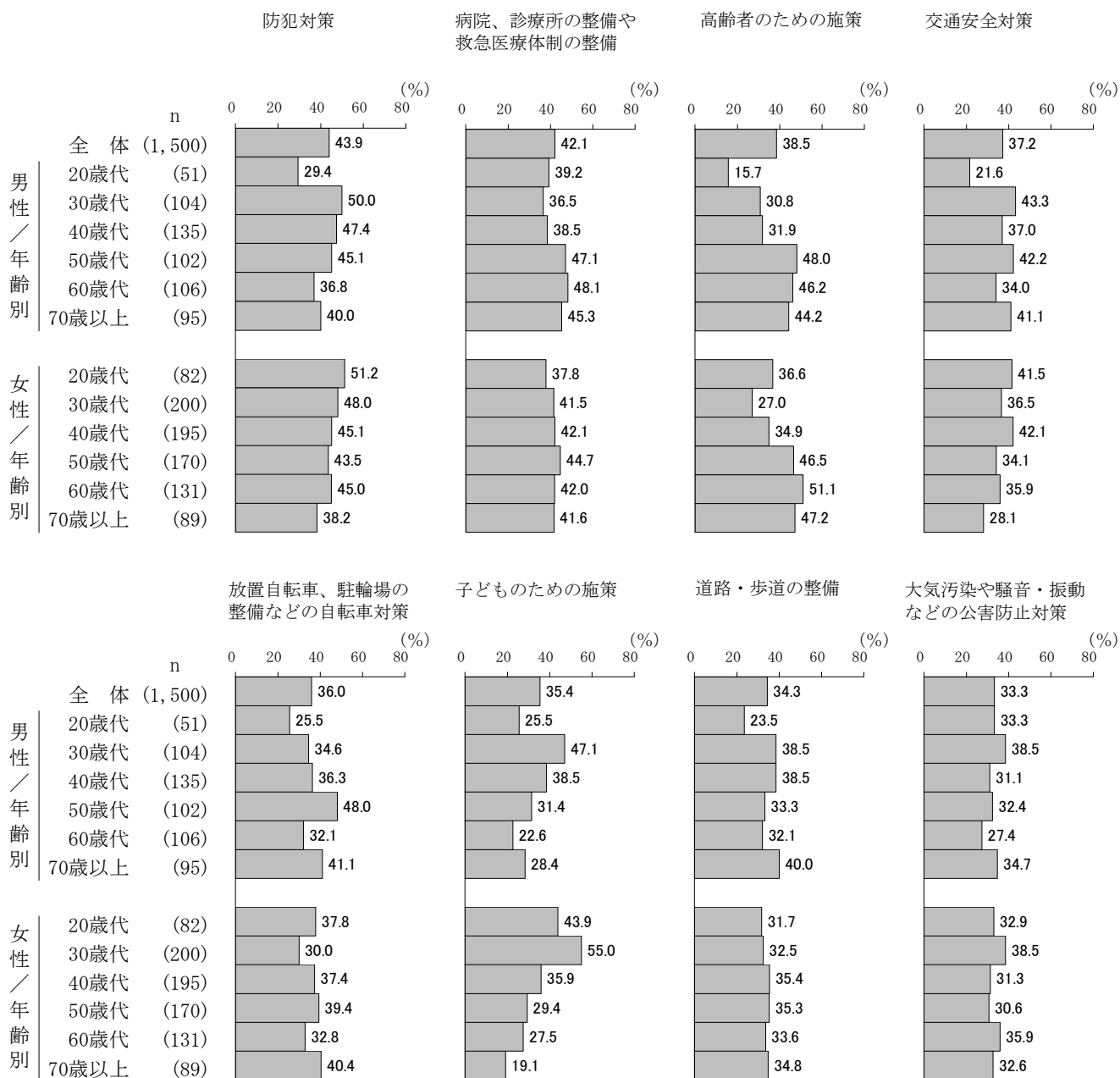
図表4-6 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいと思うこと（前年比較）

（％）

	平成23年度	平成22年度
防犯対策	43.9	42.7
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	42.1	42.9
高齢者のための施策	38.5	40.6
交通安全対策	37.2	32.2
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	36.0	30.9
子どものための施策	35.4	33.4
道路・歩道の整備	34.3	28.5
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	33.3	32.6
自然や緑の保全	33.1	30.9
道路、公園、広場の美化・清掃	32.7	31.3
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	31.3	28.4
行財政改革	30.5	28.9
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	29.8	31.6
公園の整備や維持管理	27.7	25.8
障害者のための施策	26.9	26.8
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	25.9	24.7
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	22.4	23.9
主要な駅周辺の再開発	21.6	20.9
スポーツ・レクリエーションの施設整備	21.5	20.4
バスなどの交通網の整備	21.4	19.4
市や区の仕事などについての情報提供	19.8	20.9
市民が学習する機会や施設の整備	18.5	17.8
日常のごみ収集やリサイクル	18.3	18.9
観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)	18.1	18.4
河川の整備	17.3	17.0
女性の地位向上のための施策	17.1	17.5
市営住宅の建設・整備	16.9	16.3
水道水の安定供給	16.3	12.3
消防力の強化や防災体制の整備	16.0	13.7
市政への市民参加の促進のための施策	15.5	16.7
美術館、各種ホールなど文化施設の整備	14.5	13.8
映画祭、国際会議など文化的な催しや活動	14.0	11.0
市民が親しむことのできる港湾の整備	14.0	12.7
下水道の整備	12.5	12.7
海外姉妹都市との国際交流事業	9.9	11.6
わからない	2.1	4.4
特にない	1.3	2.9
無回答	6.4	7.0

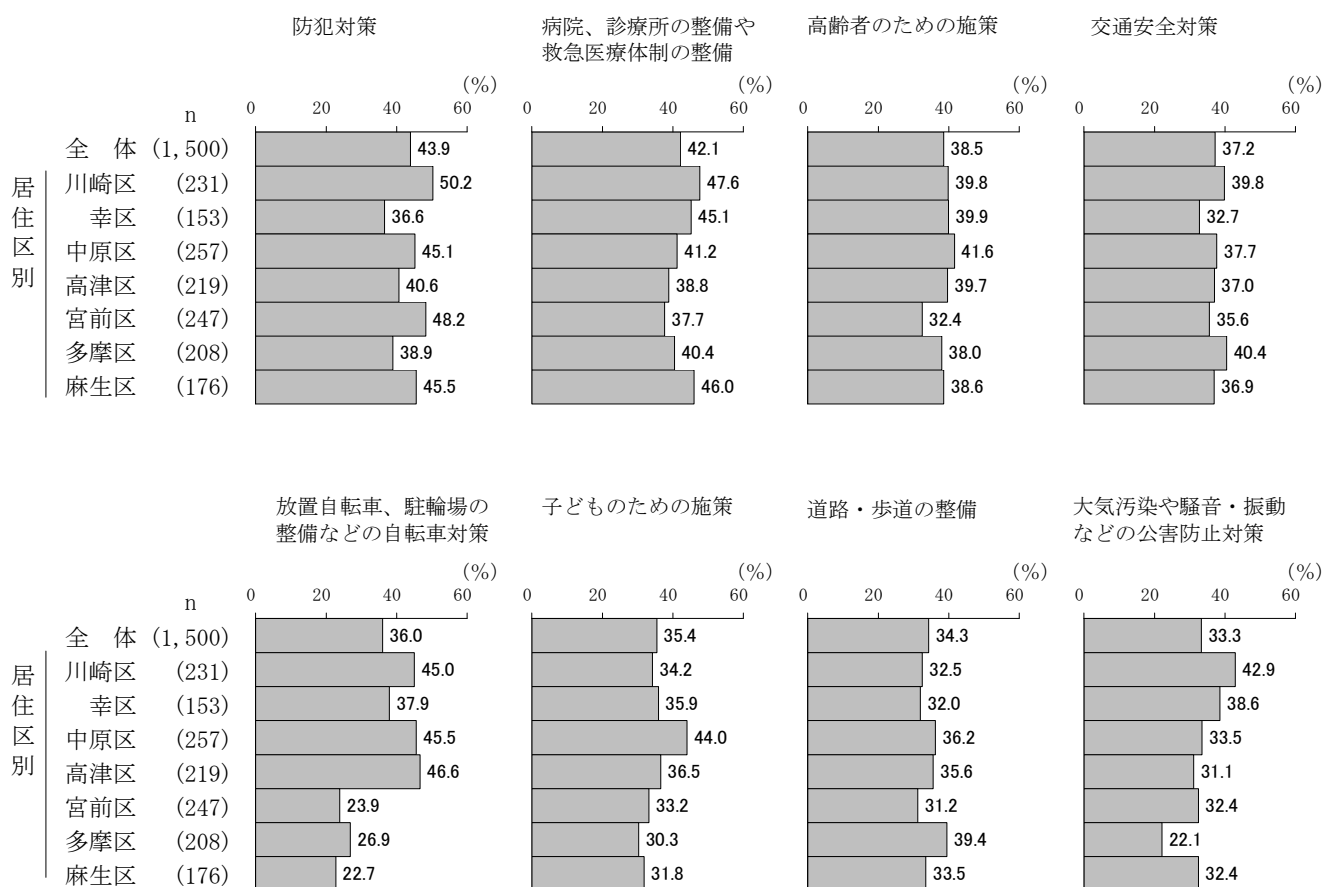
平成22年度と比較すると、「道路・歩道の整備」(34.3%)が5.8ポイント、「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」(36.0%)が5.1ポイント、「交通安全対策」(37.2%)が5.0ポイント上回っている。一方、「高齢者のための施策」(38.5%)が2.1ポイント、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(29.8%)が1.8ポイント、「海外姉妹都市との国際交流事業」(9.9%)が1.7ポイント下回っている。(図表4-6)

図表4-7 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「防犯対策」は、男性では20歳代(29.4%)が最も少なく、30歳代から50歳代が4割台半ばから5割と多くなっており、女性では20歳代(51.2%)が最も多くなっている。「病院・診療所の整備や救急医療体制の整備」は、男性の50歳代(47.1%)、60歳代(48.1%)が4割台後半と多くなっている。「高齢者のための施策」は、男女ともに50歳代から70歳以上が多くなっている。「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」は、男性50歳代(48.0%)が多くなっている。「子どものための施策」は、男女ともに30歳代(男性:47.1%、女性:55.0%)が最も多くなっている。(図表4-7)

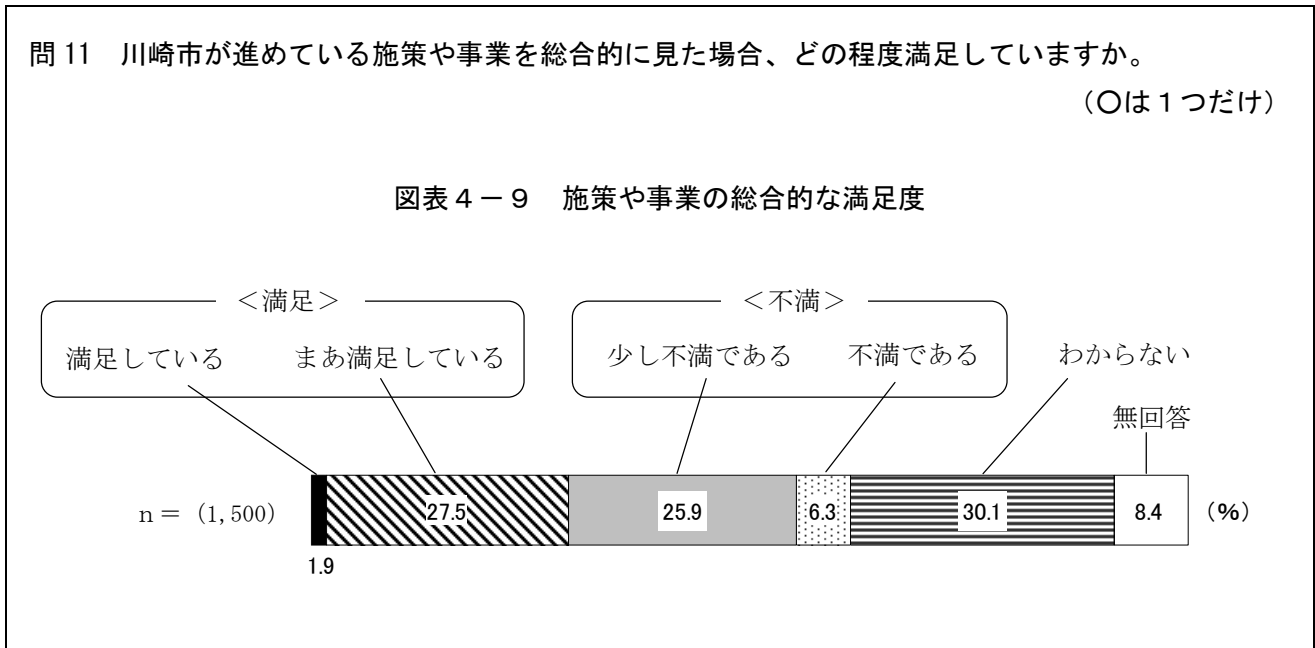
図表4-8 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「防犯対策」は、川崎区（50.2%）が約5割で最も多く、次いで宮前区（48.2%）が4割台後半となっている。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、川崎区（47.6%）が4割台後半で最も多く、次いで麻生区（46.0%）、幸区（45.1%）が4割台半ばとなっている。「高齢者のための施策」は、宮前区（32.4%）が他の居住区に比べ少なくなっている。「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」は、高津区（46.6%）、中原区（45.5%）、川崎区（45.0%）が4割台半ばと多くなっている。「子どものための施策」は、中原区（44.0%）が最も多くなっている。（図表4-8）

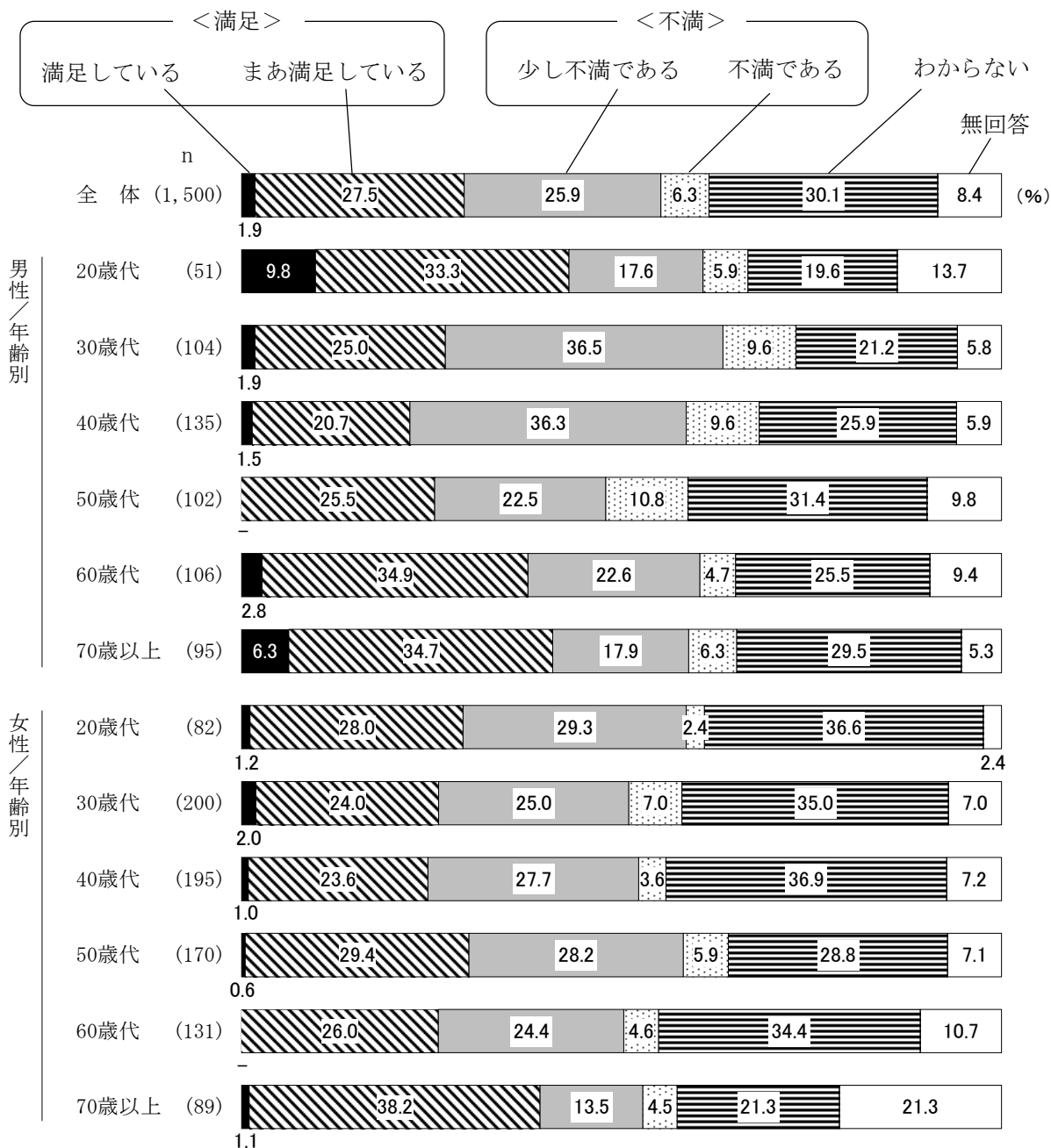
### 4-3 施策や事業の総合的な満足度

◎<満足>が29.4%



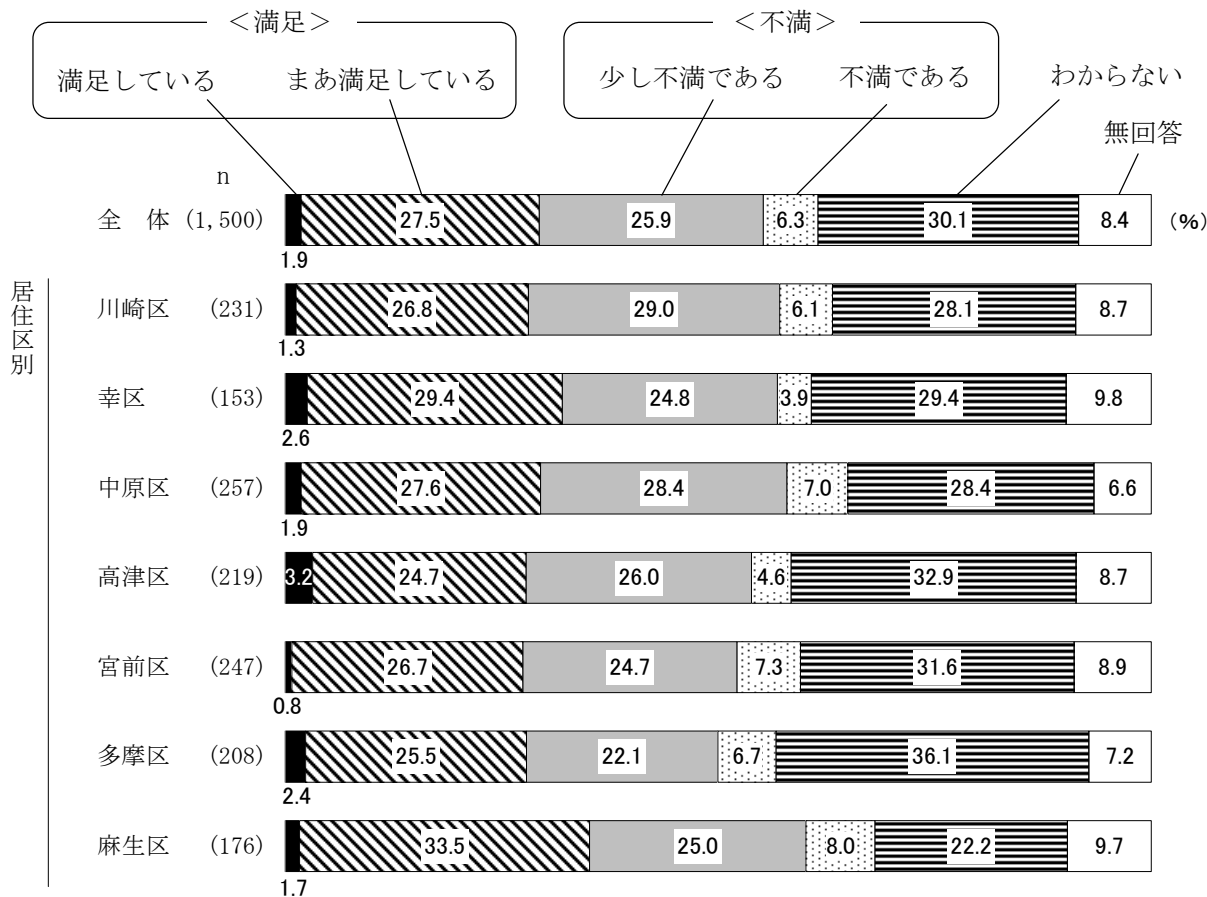
施策や事業の総合的な満足度は、「満足している」の1.9%と「まあ満足している」の27.5%をあわせた<満足>は、29.4%となっている。一方、「少し不満である」の25.9%と「不満である」の6.3%をあわせた<不満>は、32.2%となっており、<不満>が<満足>を2.8ポイント上回っている。(図表4-9)

図表4-10 施策や事業の総合的な満足度(性/年齢別)



性/年齢別では、＜満足＞は、男性では20歳代(43.1%)、70歳以上(41.0%)が4割と多くなっており、30歳代から50歳代は2割台となっている。女性では、70歳以上(39.3%)が約4割と最も多く、他の年代は2割台半ばから3割となっている。＜不満＞は、男性の30歳代(46.1%)、40歳代(45.9%)が4割台半ばと多くなっている。(図表4-10)

図表4-11 施策や事業の総合的な満足度（居住区別）



居住区別では、<満足>は、麻生区（35.2%）が3割台半ばと最も多くなっている。次いで、幸区（32.0%）、中原区（29.5%）、川崎区（28.1%）の順となっている。一方、<不満>は、中原区（35.4%）、川崎区（35.1%）が3割台半ばと多くなっており、次いで、麻生区（33.0%）、宮前区（32.0%）の順となっている。（図表4-11）